

事ナキハ当然ナル旨述ヘタル由又經濟部長「ストパニ」ハ伊藤ニ対シ支那問題ハ目下連盟事務局内ノ支那委員会ニ於テ研究シ居リ同委員会ニハ杉村モ出席シ居ルヲ以テ我方利益ハ充分保護セラルヘク経済顧問ノ選任等ニ際シ議長及副議長ノ外日本委員ヲ出席セシムル事トセルカ独委員等ヨリ

モ同様ノ申出アリ徒ニ事態ヲ紛糾セシムル虞アルヲ以テ本問題ニ付テハ議長及副議長ニ一任セラレタキ旨申出タル由ニテ伊藤ハ右様ノ諒解ニテ承諾セル趣ナリ
在仏大使へ暗送セリ

四 対独賠償問題

1 対独賠償専門委員会(ヤング委員会)

269 昭和3年9月12日 在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外交大臣宛(電報)

ライン撤兵問題と賠償問題に関する関係国代表者会議について

ジュネーヴ 9月12日後発
本省 9月13日前着

第一九号

安達大使ヨリ

九月十一日「ライン」撤兵問題ニ付関係国代表者ノ会合ヲ開クニ付出席アリ度キ旨「ブリアン」ヨリ申越シタルニ依リタ刻「カツシエンタン」卿宿舍ニ赴キ英、仏、白外相、伊国代表(「シヤロヤ」)及独宰相ト会合セリ

先ツ独宰相ヨリ平和条約第四百三十一条ヲ楯トシ法律上独逸カ「ライン」撤兵ヲ要求スル権利アル旨並政治上其ノ必要ナル所以ヲ述ヘタルニ対シ「ブリアン」ハ先年「トワリ

」ニ於テ「ストレーゼマン」カ約セル諸点ニ関シ独逸ヨリ未タ何等ノ申出無ク仏国トシテハ其ノ申出ヲ待チツツアル次第ナリト応シ又「ロカルノ」協定成立当時ノ事情ヲ説明シ其ノ撤兵問題ト関連スル処無キヲ論シ法律上ノ見解ニ付テハ意見ヲ留保セリ「カツシエンタン」卿ハ当面ノ問題ハ過去ノ事実又ハ法律上ノ見解ニ非スシテ如何ニセハ速ニ撤兵ヲ実現シ得ルヤニアル処英国ニ於テハ政府、輿論共ニ撤兵ト賠償トハ密接離スヘカラサル関係アルモノト認メ居レリ独逸ヨリ此ノ趣旨ニ基キ何等提案スルヲ得サルヤト尋ネタルニ独宰相ハ「トワリー」会见ノ頃ハ賠償問題解決案ノ作成可能ナリト思考シ種々研究シタルモ一般金融ノ状況殊ニ米国市場ニ於テ故障アリ「ドーズ」案実施後ハ其ノ実現益々困難トナレルニ付法律上ノ根拠ニ基キ何等ノ交換条件ヲ付スルコト無ク撤兵実行ヲ要求スルモノナル旨ヲ述ヘタリ

「イーマンス」ハ「カ」卿ノ説ヲ支持シ自国政府モ撤兵ト賠償トヲ平行解決スヘキモノト認ムル旨ヲ述ヘ「シヤロヤ」ハ訓令ヲ受ケ居ラサル旨ヲ断リ私見トシテ右ニ同意ヲ表シタリ「カ」卿ハ賠償ノ問題ニ関シ独逸ノ新提案ヲ得タル上巴里又ハ伯林ニ於テ関係国専門家会議ヲ開キ研究セムコトヲ提議シ独逸相ハ今何等カノ結果ヲ齎シテ帰国スルニ非サレハ自己ノ立場ヲ失フヘシトテ其ノ苦衷ヲ訴ヘ「カ」ノ謂フカ如キ案ノ作成ハ至難ノ事ト思考スルモ更ニ熟考スヘキ旨ヲ約シ木曜日朝更ニ会合ノ事トシテ散会セリ尚本問題ニ関シ米國ヲ疎外スルカ如キ形トナラサル様細心ノ注意ヲ要スル点ニ付テハ一同全然同感ナル旨ヲ繰返セリ

右欧州各大使及米へ転電セリ

270

昭和3年9月13日

在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外交大臣宛(電報)

仏国よりの賠償問題最終的解決のための専門 家会議開催提議について

ジュネーヴ 9月13日後発
本 省 9月14日前着

ハサルヘキニ付独国カ右専門家会議ニ参加スルノ意思ヲ明白ニ表示スルト同時ニ右撤兵ヲ実行セラレタキ旨ヲ繰返し各員問答長時ニ亘ル「カツシエンダン」ハ此ノ儘会谈ヲ継続スルモ成功ノ見込無キニ付各員篤ト其ノ政府ト相談シ得ルノ時ヲ与フル為一時休会シ来ル一六日朝再開スルコトト致シタク尚専門家会議ニハ英国人モ参加スルコトト致シタシト述フ

右提案ノ第一ニ関シテハ「ブリアン」ハ同意シ今日帰里直ニ本問題ヲ閣議ニ付スヘキ旨ヲ答ヘ「ミユラー」モ亦之ニ同意シ明日伯林ニ閣議ヲ開キ電話ニテ諸閣僚ト交渉スヘキ旨ヲ答フ伊白代表モ亦之ニ和シ且専門家会議ニハ各自国人ヲ参列セシムヘキヲ述フ本使ハ未タ帝政府ヨリ何等ノ訓令ニ接セサルモ右専門家会議ニ参加ノ件ニ付テハ全ク意見ノ発表ヲ留保シ置キタリ此ノ点ニ関シ何等御意見アラハ至急御電示相成タシ

在欧州各大使、在米大使へ転電セリ

271

昭和3年9月15日

田中外交大臣より
在ジュネーヴ連盟三全権宛(電報)

第二三三号
往電第一九号ニ関シ
安達大使ヨリ

一三日「ライン」撤兵問題ニ関スル第二回会議ヲ開ク出席者前回ニ同シ
独逸相ハ前回主張セル法律論ヲ棄ツル能ハサルモ「ドーズ」案再審査ノ為ニ独逸兩國専門家会議ヲ開キ其ノ機会ニ於テ何等カ仏國ノ希望ヲ満足セシムルヲ得可キヤ否ヤヲモ考慮スルコトスルニハ同意スヘキニ付「ライン」第二地域ヨリ此ノ際直ニ撤退セラレ度キ旨ヲ述フ

「ブリアン」ハ法律論議ヲ継続スルモ詮無キニ付本問題ハ全然政治上ノ見地ヨリ解決ヲ講スルヲ要シ「ドーズ」案ノ不確定ヲ除去スルコトハ目下ノ急務ナルニ付之ニ関シ専門家会議ヲ開クコトト致シ度ク右ハ一、二個月ニテ成功終了スヘシ其ノ外予テ仏、英、独三国間ニ問題トナリ居タル Zone démilitarisée ニ関スル Commission de constatation et de conciliation ヲ設定スルニ至ラハ仏國ハ自発的ニ第二地域撤兵ヲ取計フコトトナルヘキ旨ヲ答フ

賠償問題最終的解決のための専門家会議に我 が方専門家も参加させたい旨訓令

本 省 9月15日後発

第七号

安達大使へ

貴電第二三三号ニ関シ「ドーズ」案再審査専門家会議ニハ本邦専門家モ参加セシメ度キ処賠償問題ノ従来ノ経緯ニモ鑑ミ或ハ困難ナルヘキモ出来得ル限り右実現方御尽力アリタシ

272

昭和3年9月16日

在ジュネーヴ連盟三全権より
田中外交大臣宛(電報)

賠償問題最終的解決のための財政専門家委員 会設置について

付記

賠償問題最終的解決のための財政専門家委員

会設置に関する関係六ヶ国コミュニケ

ジュネーヴ 9月16日後発

本 省 9月17日後着

第二九号

安達ヨリ⁽¹⁾

往電第二三号ノ会合十六日開催セラル出席者前回ト同様約四時間ニ亘リ論議ヲ為シタルカ其ノ要領左ノ通

一、独逸宰相ハ独逸政府ハ十五日二回閣議ヲ開キ審議ヲ尽シタル結果財政専門家會議ヲ成ルヘク速ニ巴里又ハ其ノ他ノ地ニ開催シ戦後財政ノ諸問題ヲ審議セシムルコトニ異存無キコト並ニ「ゾーン、デミリタリゼ」ニ「コンミツシヨン、ド、コンスタタシヨン、エ、ド、コンシリアシヨン」ヲ新設スルニ対シ主義上異存無キモ該委員會ノ存続期間ハ一九三五年迄ト為スコト必要ナル旨ヲ詳細陳述シタリ右ニ対シ「ブリアン」ハ仏国内閣ハ十四日同氏ノ意見ヲ承認セル旨ヲ述ヘタル後前記新設委員會ノ存続期間ヲ一九三五年ニ止ムルノ理由ナク少クトモ之ヲ「ロカルノ」条約ノ存続期間ト同一ナラシムルノ必要ヲ痛論シ数回押問答アリ英国外務大臣双方意見ノ接近ヲ試ミタルモ効ヲ奏セス遂ニ右存続期間ノ問題ハ仏兩國間ノ直接交渉ニ委スルコトニ決定セリ

二、貴電第七号ノ御趣旨ニ依リ本使ハ帝国政府ニ於テ右財政専門家會議ニハ当然本邦専門家モ参加スルコトト思考

シ居ル旨ヲ述ヘタルニ伊白両代表ニ於テ難色アリタルモ仏国外務大臣並ニ独逸宰相ハ本使ノ所言ニ賛成ナル旨ヲ述ヘ英国外務大臣亦之ニ和シ遂ニ全部本使ノ主張ニ同意スルニ至レリ

三、⁽²⁾次テ「ブリアン」ヨリ右専門家會議ニ他ノ利害關係国特ニ米國専門家ヲモ加フヘキ旨ヲ主張シタルニ対シ英国外務大臣強ク之ニ反対シ独逸宰相白耳義外務大臣モ亦之ニ賛成シタル為「ブリアン」ハ遂ニ自説ヲ撤回シ結果六箇国ノ専門家ノミヲ以テ右會議ヲ組織スルコトナレリ四、「ライン」撤兵問題ニ関シテハ從來独逸政府ヨリ幾度トナク仏國政府ニ提議シタルモ常ニ仏國政府之ヲ峻拒シ居タルニ今回初メテ仏國政府カ本問題ニ関シ公然交渉ノ開始ヲ承諾シタルハ全然局面ノ新開展ニシテ独逸政府ニ於テハ之ヲ機トシ出来得ル限りノ譲歩ヲ為シ以テ撤兵並ニ戦後財政諸問題ノ解決ヲ為サント期シ居ル趣ニテ前記「コンミツシヨン、ド、コンスタタシオン」ノ存続期間ニ関シテモ独逸宰相本十六日夜出發帰國ノ上更ニ審議ヲ尽スヘキ由ナリ

若シ本委員會成立スルニ至リ且六國財政専門家會議ニ於

テ何等成案ヲ得タル曉ニハ連合國ハ「ライン」第二地域ノ撤兵ヲ実行スル段取トナルヘシ

五、前記財政専門家會議ノ委員ニ関シテハ各國トモ其ノ人選ニ付深厚ナル注意ヲ為スコトナリ居レルニ付此ノ点特ニ御含置キ相成度シ

英、仏、米、独、伊、白ハ電報セリ

(付記)

DÉCISION DE LA CONFÉRENCE

DES "SIX" de GENÈVE.

(Communiqué officiel publié le 16 septembre à la suite de sa troisième réunion).

A la fin de la troisième conversation qu'ils ont eue, les représentants de l'Allemagne, de la Belgique, de la France, de la Grande-Bretagne, de l'Italie, du Japon, ont constaté avec satisfaction les conditions amicales dans lesquelles ont été envisagées les importantes questions qui ont fait l'objet de leur échange de vues. L'accord

s'est établi entre eux sur les points suivants :

- 1° - Sur l'ouverture d'une négociation officielle relativement à la demande formulée par le chancelier du Reich au sujet de l'évacuation anticipée de la Rhénanie;
- 2° - Sur la nécessité d'un règlement complet et définitif du problème des réparations et de la constitution, pour atteindre ce but, d'une commission d'experts financiers désignée par les six gouvernements ;
- 3° - Sur le principe de la constitution d'une commission de constatation et de conciliation.

La composition, le fonctionnement, l'objet et la durée de ladite commission seront soumis à une négociation entre les gouvernements.

273

昭和3年11月(1)日 在仏國安達(峯一郎)大使より

田中(外務大臣宛)(電報)

財政専門家委員會に対する仏國態度について

パ リ 本 省 11月1日後着 発

第三八一号

往電第三七二号ニ関シ

仏国政府ヨリ三十日付「ノート」ヲ以テ賠償問題ニ対スル
同国ノ態度ヲ通報シ来レリ右ハ英白伊各国政府ニモ通報済
ナル旨申添ヘアルヲ以テ英国政府ト協議纏マリタル上申越
シタルモノニアラサルヘク此ノ点ハ追テ確ムヘキモ同日
ノ閣議ニテ確定シタル結果不取敢通報シ来レルモノト思考
セラル右「ノート」内容左ノ通

仏国ハ九月十六日ノ「コンミニツケ」(六国会議ノ結果寿
府ニテ発表セラレタルモノヲ指ス)中ニ掲ケラレタル目的
及条件ヲ以テ財政専門家會議ヲ招集スヘキコトニ同意シタ
ルモノナル処来ルヘキ本件商議ハ欧羅巴ノ經濟財政復興事
業ヲ更ニ促進スヘキコトヲ信スルト共ニ賠償問題ヲ完全且
決定的ニ整理シ得ヘキ實際的解決ヲ求メンコトヲ希望シ右
商議ヲ開始スヘシ

仏国政府ハ本問題ニ含マルル各般ノ事情ヲ考慮ノ上累次ノ
宣言ヲ維持シ仏国ハ其ノ損害殊ニ物的損害ノ大ナルカ為賠
償問題ニ付特殊ナル地位ニアルコトヲ茲ニ更メテ指摘セサ
ルヲ得ス

より田中外務大臣宛第一〇六号

財政専門家委員会に關する独国意見書

ベルリン

発

本省 11月1日後着

第一〇五号

一、外務省經濟局長「リッター」(外務大臣及次官トモ不在)

ノ求ニ応シ重光(長岡大使「リガ」出張中)三十一日午
前往訪シタル処同局長ハ賠償問題ニ付御話シ度キ次第ナ
リト前置シ本件ニ付テハ電報ヲ似テ駐日独逸大使ニ訓令
シタルモ電文簡ニシテ意ヲ尽ササルヘキニ付自分ノ説明
ト共ニ茲ニ用意シタル独逸政府ノ意見書(デクラレイシ
ヨン)ヲ日本政府ニ通達方取計ハレ度キ希望ナリト別
電第一〇六号ノ英訳文(原文ハ独逸語)ヲ読上ケタル後
大要左ノ通説明セリ

本独逸政府ノ意見ハ昨日又ハ今日、日、英、仏、伊、米
關係各国政府駐在独逸代表者ヨリ各任国政府ニ対シ通達
セラレタル次第ニシテ寿府決議ヲ實現セン為茲ニ本意見
ヲ開陳スル訳ナリ

(一)米國トノ關係ハ最重要ナル一点ニシテ且機微ナル点ナ

仏国ハ外務大臣カ寿府交渉ニ於テ述ヘタル如ク何等新ナル
利益ヲ要求セムトスルモノニ非サルモ若シ新ナル解決ニシ
テ仏国カ其ノ外国債權者ニ支払ヲ為スヘキ期間中右支払ニ
要スル金額ノ外戦争ノ損害ヨリ生シタル仏國ノ負担ヲ償フ
ニ足ルヘキ賠償金ヲ仏國ニ与フルモノニ非スハ仏國ハ正
當ニ確認セラレタル權利ニ付満足ヲ得タルモノト謂フ事ヲ
得サルヘシ右ノ点ニ関シ仏國政府ハ既定ノ賠償分配率カ新
取極ニ依リ如何ナル場合ニ於テモ仏國ノ不利益ニ變更シ得
ヘカラサルモノナル事ハ当然ノ儀ト思惟ス

仏國政府ハ前記条件ニ於テ来ルヘキ委員会ノ事業ニ協力セ
ムトスルモノナリ

右「ノート」写郵送ス

英、米、独、伊、白ヘ転電セリ

274

昭和3年11月(1)日

在独国重光臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)財務専門家委員会に關する独国意見書につい
て

別電 昭和三年十一月一日着在独国長岡(春一)大使

リ米國側ノ参加無クシテ成功覚束ナキコト明カナルモ
米國政府カ公然参加スルコト無キハ是亦明カナルモ何
トカシテ米國人ヲ加フルコト絶対ニ必要ナリ若シ此ノ
点ニ付テ六國間ニ意見一致スルニ於テハ六國側ヨリ適
当ナル米國人ニ参加ノ案内ヲ出スコト然ルヘシト思考
ス

(二)第二点モ亦最重要ナル点ニシテ既ニ寿府ニ於テ決定セ
ラレタルカ如ク賠償問題ノ徹底的解決ヲ計ル為ニハ是
非共独立ノ權威アル専門機關ト為スノ必要アリ若シ委
員ノ行動ニ付テ一々政府ノ掣肘ヲ受クルモノナルトキ
ハ其ノ成功ヲ期シ難ク而シテ米國人ノ参加モ忽チ困難
トナルヘシ

(三)委員会開催ノ時期及場所ノ点ハ重要問題ニ非ス成ル可
ク速ニ孰レノ地ニカ開催セラルレハ足ル各国ニシテ若
シ伯林ヲ希望セラルルニ於テハ独逸政府ハ之ヲ歡迎ス
ルノ用意アルコトヲ表示シ得ル次第ナリ

(四)委員会ノ権限ハ寿府決議ニ於テモ明示セラレタル通賠
償問題ノ徹底的解決ヲ計ル為ニハ何等制限無キモノタ
ルヲ要スヘク若シ制限ヲ付スルカ如キ場合ハ米國ノ参

加ハ望ミ難シ

(五)委員会ハ今回六国政府ニ依リ任命セラルル者ニシテ「ドーズ」委員会ノ如ク賠償委員会ノ依頼ニ基ク者ニ非ス故ニ密接ナルニ委員会ノ協力ニ付テ特ニ注意シタル次第ナリ

二、右説明ノ後左ノ通質問応答セリ

(一)米国ノ参加ニ付テハ特ニ重キヲ置カルルカ如キ処今日迄關係各國政府ト意見交換ノ結果此ノ点ニ関シ意見ノ合致ヲ見居ル次第ナリヤ又今日迄米国政府ニ対シ本件ニ付何等申入ヲ為サレタルコトアリヤ又「ギルバート」氏等ノ意見ハ如何ナルモノナリヤトノ質問ニ対シ局長ハ是等ノ点ニ関シ今日迄正式ニ他国政府ト交渉シタルコト無ク今後ノ交渉ノ發展ニ俟ツ次第ナルモ此ノ点ニ付テハ各國間ニ何等意見ノ相異無キ見込ニテ米国政府ニ対シテモ今回開始メテ意見ヲ開陳セル次第ナルカ「ギルバート」氏カ英、仏、白ヲ訪問シ米国側トモ接触シタル結果内談セル処ニ依レハ米国政府ハ米国人ノ参加ニ付テハ何等異存無カルヘシトノコトナリト答ヘ

(二)然ラハ如何ナル人物力適當ナリトセラレ居ルヤ又是ニ

会ノミ成功セリ此ノ点ハ米国委員参加ニ付テモ重要ナル關係ヲ有スルニ付是非独立ノ専門家會議トシ度シト答ヘタリ重光ハ更ニ此ノ点ハ独逸政府ノ最重要視スル処ト承知スル処若シ仏国ニシテ強テ反対スルニ於テハ独逸ハ如何ナル態度ニ出テラルルヤト問ヒタルニ局長ハ「然ラハ已ムヲ得ス仏国ノミ政府代表者ヲ出席セシムルコトトナランモ夫レニテハ結果ノ危フマルル次第ナリ」ト答ヘタリ

(四)開催地ノ如何ハ兎ニ角開催期ハ遠隔ノ地ニ在ル日本ニ取りテハ實際問題トシテ重要ナル処何日頃トノ御内議アル次第ナリヤトノ質問ニ対シテハ寿府決定後大分時日モ経チ居ル今日一般輿論ノ手前モアリ成ルヘク速ニシタキ処「ギルバート」ノ意見ニテハ米国大統領選挙決定ノ十一月六日より新大統領ノ就任期タル三月四日ノ間ニ仕事ヲスルコト米国内政ノ關係上對米策ヨリ觀テ最適ナリトノコトナルカ自分ハ談合纏マルニ於テハ早クモ十一月末又ハ十二月始ヨリ会合ノコト考ヘ居レリ

(五)第四点ニ付テモ各國間ニ特ニ異論無キヤトノ質問ニ對

對スル参加案内ハ如何ニシテ発セラルル御考ナリヤトノ質問ニ對シテハ現ニ内々話ニ上リ居ルハ「ヤング」ニシテ同人ハ「ギルバート」ノ談ニ依レハ適當ナル案内アラハ承諾差支無キ意向ノ由ニテ其ノ他談ニ上リ居ルハ元國務卿「ヒューズ」氏及在墨大使「モロウ」氏ナリ若シ六国ノ意向纏マルニ於テハ其ノ先ハ手續問題ニテ困難無カルヘク先ツ「ギルバート」ヨリ米国政府及当人ノ意向ヲ確メタル後六国ノ名前ヲ似テ一國ノ大使又ハ國際連盟ノ機關ヲ通スルナリシテ当人ニ案内狀ヲ出スコトヲ得ヘシ

(三)⁽³⁾第二点ノ政府ノ訓令ニ拠ラサル点ハ独逸政府ノ意向ハ判明セルモ此ノ点ニ関シ關係國ノ間ニ意見交換セラレタルコトアリヤ又異論アル國アリヤト質問セルニ局長ハ英國、白耳義、伊國ニ於テハ別ニ異論無キカ如キモ仏國政府ハ此ノ点ニ於テ未タ独逸政府ノ意見合致ニ至ラス考量中ナルカ如シ若シ政府ノ代表者ヨリ成ル政治會議ト為スニ於テハ會議ハ不成功ニ終ルコト今日迄ノ歴史ニ觀テ明白ナリ賠償問題ニ付テハ今日迄政府會議ハ皆失敗ニ帰シ独リ専門家會議タリシ「ドーズ」委員

シテハ仏國モ結局是ニ同意スルニ至ルヘキ見込ナリ元來「ドーズ」委員会ノ際ニ賠償委員会ノ同委員會ニ与ヘタル権限限定セラレタル為米國委員ハ就任ヲ拒絕シ結局無制限ノ権限ヲ与ヘラレタルコトアルカ今回若シ権限ニ制限ヲ加ヘラルルコトアラハ米國委員ノ参加ハ希望無ク結局賠償問題ノ徹底の解決ハ失敗ニ終ルヘシト述ヘタリ此ノ点ニ関シ重光ハ會議ノ権限ハ右ノ通トシテ會議ニ於ケル審議ノ基礎トモナルヘキ事項ニ付テ今日迄何等意見ノ交換アリタルヤト質問セルニ右ニ付テハ米國紙上ニハ種々ノ議論アルモ政府間ニハ何等話合タルコト無ク是皆會議ノ審議ニ一任セラルル次第ナリト答ヘタリ

(六)⁽⁴⁾尙局長ハ「ドーズ」委員会ハ今回ノ會議トハ性質能ク似タルモ前者ハ賠償委員会ノ委嘱ニ依リ今回ハ各國ノ任命スルモノナルコト茲ニ説明ノ通ニシテ此ノ点ト前者ニハ独逸ハ参加シ居ラサリシ点トハ兩者ノ主タル相違点ナリ是等ノ關係ヨリ第五点ノ必要ヲ見タリト付加説明セリ

最後ニ重光ハ本意見通牒ハ關係各國政府ニ同時ニ為セ

ル次第ナリヤ又既ニ回答ニ接セル部分アリヤト質問セルニ訓令ハ同時ニ発セラレタリ英、仏、白ニ於テハ火曜日既ニ訓令ハ執行セラレタリ伊ト米（及ヒ日）ニ関シテハ回電無キニ付多分水曜日トナリシモノナラン少クトモ英、伊、白三國ハ全部ニ付承諾ヲ得ル見込（英國「カツシエンダン」卿ハ独逸代表者ニ対シ好意的意見ヲ述ヘタリ）ハ既ニ「ピユラニー」氏ノ任命アリ白ハ多分「フランキー」氏ヲ、英ハ「スタンブ」氏ナルヘク「ギルバート」ノ意見ニテハ中央銀行首脳者ノ参加ヲ希望セラルトノコトニテ右ノ外各国中央銀行総裁ノ任命アルヤモ知レス然ラハ英「ルマン」、⁽⁴²⁾ 仏「モロウ」、独「シヤハト」ノ任命アルヘシ而シテ「ギルバート」トハ絶エス相談シ同氏ハ本意見ニ完全ニ同意ヲ表シ居ル次第ナリト答ヘタリ同局長ハ尚右様ノ次第ニテ本問題ハ一局部ノ問題ト云フヨリモ世界ノ安定ニ重大ナル關係ヲ有スル次第ニ付何卒日本政府ヨリモ独逸政府ノ意見ニ賛成ヲ得度ク希望シテ止マスト述ヘタルニ付重光ハ日本ハ世界平和及安定ノ為ニハ決シテ努力ヲ吝ムモノニ非サルカ何レニシテモ御希望ニ応ジ細

電報シテ東京ヨリ何分ノ訓令ヲ請フコトトスヘシト答ヘテ辞去セリ
英、米、仏、伊、白へ転電セリ

（別電）

ベルリン 発
本 省 11月1日前着

第一〇六号

⁴¹⁾ At Geneva, on September 16, 1928, the representatives of the Governments of Germany, Belgium, France, Great Britain, Italy and Japan stated their agreement as to "the necessity for a complete and definite settlement of the reparation problem and for the constitution for this purpose of a committee of financial experts to be nominated by the six Governments". The German Government deems it desirable that the said six Governments should now come to an agreement concerning the execution of this plan and that they should take the steps requisite to

enable the proposed committee to commence its task.

The German Government is of the opinion that, for this purpose, the following points should be considered :

1. The Geneva resolution of September 16, 1928, makes reference only to experts of the six countries participating in the resolution. In the interests of all concerned, it would, however, be a welcome addition if, besides the respective nationals appointed by the six Governments, citizens of the United States of America also participated in the committee. In this case, the six Governments would have to agree on the citizens of the United States of America to whom invitations to (?) in the committee should be sent.

⁴²⁾ 2. Like the First committee of Experts appointed in November, 1923, the committee should consist of independent financial experts of international repute, each of such standing in his own country and not handicapped by any instructions from his Government. The number of members should not exceed three for

each country.

3. The committee should meet as soon as possible. The place where the deliberations are to be held would be determined on grounds of expedience. The German Government would welcome the choice of Berlin as the meeting place.

4. The committee's terms of reference are clearly indicated in the Geneva resolutions by the (of the) words "complete and definite settlement of the reparation". According to the wording the committee would have to be instructed to me proposals for such a definite and complete settlement of the reparation problems.

5. As soon as the six Governments shall have agreed as to the above points, they would inform the reparation commission accordingly and invite it to co-operate, at a given date, for the purpose of realizing the proposals of the committee of experts subsequent to their adoption by the Governments.

~~~~~

275 昭和3年11月(7)日 在英國佐分利臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

賠償問題に対する英國意向表明について

別電 昭和三年十一月六日着在英國佐分利臨時代理

大使より田中外務大臣宛第二八五号

賠償問題に対する英國覚書

ロンドン

発

本省 11月7日前着

第二八四号

大蔵大臣「チャーチル」本官ニ面会シタキ旨外務省ヨリ申  
越ノ次第アリタルヲ以テ五日往訪シタル処同大臣ハ賠償ニ  
関スル専門家會議開催ノ議アルコトハ御承知ノ通ナルカ此  
ノ際賠償問題ニ関スル英國政府ノ意向ヲ明カニシ独逸政府  
ヲシテ會議開催ニ先立チ之ヲ知悉セシメ置クコト望マシク  
右英國政府ノ意向ハ茲ニ記載セル通りナリトテ(仏国ノ意  
向ハ之ヨリモ多少「ステアフ」ナルヘシト付言セリ)別電第  
二八五号覚書(印刷物)ヲ手交シタル上右ハ既ニ仏国ニハ通  
知シ又伊白両国大使ニモ同一文書ヲ手交シタリト述ヘタリ  
本官ハ独逸ニ対シテハ如何取扱ハレタリヤト質問セルニ独

逸ニハ未タ通知セス如何ニシテ通スヘキヤハ尚考慮中ナリ  
ト答ヘ更ニ本官ヨリ米國ヘハ如何ト尋ネタル処米國ヘノ通  
報ハ「ギルバート」ノ裁量ニ委シアリ同人ニ於テ適當ニ通  
報方取計ヒタルコトト信ス勿論米國政府ニ於テ希望スルニ  
於テハ直接通報スルニ異存無キ次第ナリト答ヘ次テ米國政  
府ハ元来「バルフォア・ノート」ニ対シテハ好感ヲ有セサ  
ルヲ以テ前記英國ノ態度モ余リ氣ニ入ラサルヤモ知レスト  
ノ意ヲ漏ラシ且右覚書ハ機密ニ取扱ハレタシト言ヘリ尚專  
門家会合ノ場所及時期等ニ付質シタルニ未タ何等決定シ居  
ラサルモ場所ニ付テハ大勢ハ巴里トナルヘキカト思考ス尤  
モ英國ハ伯林ニテモ異存無ク唯倫敦ニ開催セラルルコトハ  
之ヲ好マス尚「ブラッセル」説モアリト言ヘリ  
米、仏、独、白、伊、ヘ転電セリ

(別電)

ロンドン

発

本省 11月6日後着

第二八五号

Policy of His Majesty's Government in respect of

Debts and Reparations is based as here-to-fore on  
Balfour Note, under security (not as matter of  
bargaining, but as voluntary act of renunciation) His  
Majesty's Government undertook to limit their claims  
upon their Allies to such amount as, with receipts of  
Great Britain from Reparations, would suffice to meet  
liabilities they had incurred to United States in respect  
of War Debt.

As was made clear in Anglo-French and Anglo-Italian  
Debt Agreements, share of reparations payable to  
British Dominions and Colonies can not be counted in  
calculation of British receipts for this purpose, as these  
payments in no way benefit tax payer in United  
Kingdom.

<sup>(2)</sup> During present financial year for first time, British  
Government receipts from refunds and Allied War Debts  
together shall approximately balance payments to  
United States Government, and it is essential that in any  
new settlement with German Government His Majesty's

Government should be assured that this balance between  
receipts and payments of British Government should be  
maintained during whole economical currency of British  
Government liability. Informing this standpoint, His  
Majesty's Government are not claiming for themselves  
any peculiar or exclusive privilege. On the contrary,  
they conceive that it is common aims all creditor  
guarantees that any new settlement with German  
Government must, in first place, fully cover liabilities,  
they have each to meet in respect of War Debts.

<sup>(3)</sup> Their aggregate liabilities under this head amount to  
considerably less than normal annuity of £125 millions  
under Dawes Plan, and His Majesty's Government  
therefore see every reason to hope that settlement could  
be reached with Germany which cover not only these  
liabilities and comparatively small share of Reparation  
due to United States and to other countries (including  
British dominions) which are not indebted America, but  
would provide balance available towards cost of

reconstructing devastated regions.

His Majesty's Government desire however to point out that up to present time their payments to United States Government have substantially exceeded their aggregate receipts from German reparations and allied War Debts together ; and they must reserve their right to deal with this deficiency (which now amount, with interest, to approximately £180 millions) , in relation to Claims of other creditor Governments to recover any supplementary payments over and above their current debt liabilities.

<sup>(4)</sup> It is upon this basis that His Majesty's Government will confidential conclusions of expert committee which it has been adhered to constitute with view to final and definite settlement of reparations. It is necessary to observe that, at present, cost of Armies of Occupation in Rhine land - substantially diminish receipts available for Reparations, and in order to make largest possible amount available for Reparations, these cost should be

brought to an end as soon as possible.

Question of mobilizing capital Reparation Debt by marketing of German bonds appears to His Majesty's Government to be question of expediency rather than of principle.

To deal with this deficiency (which now amount, with interest, to approximately £180 millions) in relation to Claims of other creditor Governments to recover any supplementary payments over and above their current debt liabilities.

<sup>(5)</sup> Unless German Government are prepared to undertake service of Reparation loans over and above current annuity, service of any Bonds marketed must protanto, diminish German annuities available for distribution to Allied Governments in future all extent to which such mobilization will be in interest of Allied Governments will depend on terms and conditions upon which Bonds can be placed, e. g., rate of discount at which Bonds could be marketed as compared with rate of discount at

which proceeds could be utilized by Allied Governments to meet their liabilities. So long as (in accordance with provisions of Treaty) marketing operation is under-taken except with unanimous consent of Creditor Powers, His Majesty's Government do not see any objection of principle to study of question. They feel that, on this matter, advice of Expert Financial Committee might be invaluable, and they would be glad to invite such Committee to examine steps that can be taken to prepare way for market operation, without prejudice to rights of Allied Governments thereafter to decide whether such operation is expedient.

276 昭和3年11月7日 在米出淵大使より  
田中 外務大臣宛

### 財政専門委員会に関する米国紙論調について

普通公第五九九号 (12月14日接受)  
昭和三年十一月七日

在 米

特命全權大使 出淵 勝次 (印)

外務大臣男爵 田中 義一 殿

欧州ニ於ケル賠償問題ニ対スル米国側態度報

告ノ件

本年八月巴里ニ於ケル不戦条約調印当時ヨリ引続キ独逸側及主要連合国ノ間ニ賠償問題ニ関スル話合進行シツツアルヤニ報セラレ次テ九月連盟理事会ニ集合セル右関係国代表者間ニ各国専門家ヲ以テ組織セラルル財政委員会ヲシテ賠償額決定方ヲ審議セシムルコトニ協議纏リタル趣報道セララルヤ当国新聞紙等ニテ本件ニ付論議ヲ加フルモノ勃々有之漸ク一般ノ注目ヲ惹キ来レル処九月三十日仏国首相「ポアンカレ」カ同国「サボイ」県「シヤンベリー」ニ於ケル戦没者記念碑開幕式ノ際ノ演説中ニ於テ賠償問題ノ再審議ニ当リテハ仏国ノ受クヘキ賠償額カ其ノ戦債及戦争被害ノ全部ヲ充当スルヲ要ストノ趣旨ヲ述フルヤ「クローリツヂ」大統領ハ十月二日新聞記者定例会見ノ際戦債及賠償ハ全然別個ノ問題ナリトノ米国政府従来ノ方針ヲ繰返シ説明シタル趣ニテ大蔵長官「メロン」其他モ亦同様ノ趣旨ヲ述ヘタ

ル旨報道セラレタリ右ニ関シ紐育「サン」(十月三日)及費府「レツヂャー」(同四日)等ノ杜説ハ何レモ前記大統領等ノ説明ヲ支持スル趣旨ヲ述ヘタルカ唯タ「ジャーナル・オブ・コムマース」ハ賠償問題ニ手ヲ付ケスシテ賠償額ノ減少ヲ予期スルカ如キハ問題トナラスト論シタリ次テ十月十九日巴里ニ於テ仏国首相、英国蔵相及「ギルバート」委員ノ会談アルヤ其内容ニ付種々憶説行ハレ各方面ノ注意ヲ刺戟シタルモノノ如クナリシカ財政委員会ニ於ケル新賠償額決定方審議ハ賠償問題トハ独立ニ行ハルヘキト共ニ財政委員会ハ「ドウズ」案ニ依ル独逸鉄道債券又ハ其他ノ債券ヲ米国内市场ニテ売出スコトニ付テモ攻究スルヤモ知レストノ趣ノ報道欧州方面ヨリ接到スルヤ二十三日華府発紐育「タイムス」其他ノ特電ハ米国官邸ニテハ財政委員会ノ審議カ賠償問題ト離レテ行ハルコトトナリタルヲ慶賀シ居ルコト並ニ米国民間ノモノカ個人トシテ財政委員会ニ列席スルコトニハ米政府トシテハ反対ナカルヘシト了解セラルル旨ヲ報シ尚ホ國務、大蔵両省筋ノ消息トシテ財政委員会ニ依ル賠償問題ノ整調ハ必スシモ米国内市场ニ於ケル独逸債券ノ売出ヲ必要条件トセサルコト又此等証券ノ売出力実行の

ナルヤ及右ニ対シ米政府ニ於テ同意ヲ与フヘキヤニ付テハ慎重攻究ヲ要スル次第ナル処何レノ途該証券ノ売出ハ新賠償額決定ノ上考慮セラルヘキ問題ナルコト等ヲ記掲シ居レリ尚ホ右紐育「タイムス」等ノ記事ト前後シテ現レタル各新聞紙ノ論調ヲ見ルニ「ジャーナル・オブ・コムマース」(十月二十三日)ハ米政府カ賠償問題ノ審議ニ参加スルコトヲ拒ム限リ又ハ米国内市场カ本件独逸債券ノ売出ヲ引受ケサル限リ本問題ノ末節ヲ如何ニヒネクルモ何等実質的解決ヲ齎サストナシ又「ウォールド」(十一月五日)ハ賠償及戦債ハ経済上分割スヘカラサル問題ナリトナシ何レモ米政府当局ノ態度ヲ非難スル筆致ヲ用ヒ居レルカ一方紐育「タイムス」(同二十一日)ハ財政委員会ニ依ル賠償問題ノ整調カ賠償問題ニ対シ如何ナル影響ヲ及ホスヘキカハ将来ニ見ルノ外ナキモ兎ニ角同問題ノ解決ヲ容易ナラシムヘキハ疑ナシトナシ「クリスチャン・サイエンス・モニタア」(同二十四日)亦同趣旨ヲ述ヘタリ將又華府「ポスト」ハ目下英、仏、伊、白、独各国力進ミツツアル所ハ賠償額ノ切下ト共ニ戦債ヲ減額セムト云フニ存スル処戦債ノ切捨又ハ切下行ハルルニ於テハ賠償各国ノ信用ヲ昇上シ其ノ結果此等諸国

ハ米国内市场ニ於テ巨額ノ新債ヲ起シ得ルコトナルヘク而シテ新起債券売出ノ場合ニハ米銀行家連トシテハ之ニ依リ多大ノ手数料等ヲ収メ得ル關係上彼等ハ米政府ニ対シ右戦債ノ切捨又ハ切下運動ニ努ムヘキカ斯ノ如キハ要スルニ米銀行家ヲシテ米国民カ欧州諸国ニ貸与シタル所ノモノヲ奪取シ再ヒ之ヲ欧州ニ貸下ケシムルモノナリト述ヘ「ハースト」系ノ各紙亦米国ハ既ニ連合國ノ戦債ヲ半減シ又独逸ニ対シテモ種々尽力スル所アリタリト前記米政府側ノ態度ヲ極力支持シツツアリ

右報告申進ス

本信写送付先 在英、仏、伊、白、独各大使

277 昭和3年11月12日 在ベルギー永井(松三)大使より  
田中(外務大臣宛)(電報)

#### 賠償問題に関するベルギーの態度について

ブラッセル 発

本省 11月12日後着

#### 第四九号

外相ノ求メニ依リ九日往訪シタル処対独回答起草前賠償問

題ニ関スル白国ノ態度ヲ關係四国政府ニ内示シ置キタキニ付本国政府ニ通報方取計ハレタシトテ要領左ノ如キ「ノー・ベルバル」ヲ手交セリ

白国政府ニ於テハ寿府決議ニ基キ賠償問題ノ最後の決定ヲ計ルカ為ニ完全ナル協力ヲ与フヘシ戦後財政整理問題ニ関スル白国ノ地位ハ三個ノ協定即チ白国ノ受取ルヘキ賠償年額ヲ決定セル倫敦及巴里協定並ニ対米債務ニ対スル償還年額ヲ定メタル華府協定ニ依リ決定セラレ右協定ノ結果白国ハ対米ニ比シ一定ノ受取超過額ヲ有ス右ノ価格ハ賠償実額ヲ示スモノニシテ戦争ニ基ク負担(就中戦時占領中破壊セラレタル産業機関復興ノ為休戦後不利益ナル条件ノ下ニ募集ヲ余儀ナクセラレタル外債ニ起因セル財政負担)ノ一部分ヲ填補センカ為ニ充当セラレツツアリ而シテ右賠償実額ハ戦争直接ノ影響ニ依リ生シタル財政負担ノ三分ノ一ニ満たサル現状ナルニ付白国政府トシテハ連合國ハ勿論独逸政府累次ノ声明ニモ顧ミ右賠償実額ヲ更ニ減少セシメントスルカ如キ案ハ今後如何ナル場合ニ於テモ問題トナラサルモノト認ム

尚白国政府ハ寿府協議ニ於ケル意向ニ顧ミ同地ニ於ケル外

相ノ声明通り賠償問題ノ最後の決定ニ際シ戦時占領中通用ヲ強制セラレタル馬克紙幣ノ償還方法ヲ決定センカ為本会議ト並行シテ独逸政府トノ交渉継続ヲ期待ス云々

尚外相ハ右「ノート」ハ英、仏、伊大使ニモ手交セルカ外  
部ニ対シテハ秘密ニセラレタシト述ヘ更ニ本使ノ質問ニ対  
シ会議ノ場所トシテハ巴里ヲ最適当トスヘク「ブラッセル」  
ニ付テハ白側ヨリ何等提議シタルコトナキモ關係諸国ノ希  
望トアラハ別ニ反対スル理由モ認メスト答ヘタリ

「ノート」郵送スヘシ

英、米、仏、独、伊ニ転電セリ

278 昭和3年11月27日

在独国長岡大使より  
田中外務大臣宛(電報)

#### 財政専門委員会および賠償問題についての

#### 英・仏両国見解に対する独国覚書について

別電 昭和三年十一月二七日着在独国長岡大使より

田中外務大臣宛第一二二号

財政専門委員会および賠償問題についての

英・仏両国見解に対する独国覚書要訳

第一二二号

本省 11月27日前着

独逸政府ハ仏(又ハ英)国政府カ(英)日、伊、白各国ニ交付  
シタル賠償問題解決ニ関スル覚書ノ通報ヲ得タリ且仏(又  
ハ英)国ハ右覚書ノ内容ヲ以テ何等専門委員会ノ方針ト為  
サン事ヲ要求セラルルニ非サルモノナルヲ独逸代表者ニ説  
明セラレタリ

独逸政府ハ寿府ニ於テ専門委員招集ノ決定セラレタル後ニ  
於テハ右委員会ノ報告カ各政府ニ提出セラレタル時ニ初メ  
テ賠償問題ノ具体的解決方法ヲ講スルノ時期来ルモノナリ  
トスル立場ヲ取ルモノナルヲ以テ仏(英)国政府ノ見解ニ対  
シテハ総テノ点ニ関シ決定ノ事由ヲ留保セサルヲ得ス而シ  
テ差当リ独逸側トシテハ賠償問題ノ最終的解決ハ解決案カ  
独逸国ヲシテ自己ノ経済力ニ依リ又独逸国民ノ生存ヲ危殆  
ナラシムルコトナクシテ其ノ義務ヲ履行セシムルカ如キモ  
ノナル場合初メテ可能ナリトノ一般原則ヲ明記スルニ止ム  
ルモノナリ

ベルリン  
本省 11月27日前着

第一一九号

往電第一一七号ニ関シ

十一月二十六日「リター」局長重光ニ会見ヲ求メ覚書写(其  
ノ要訳別電第一二二号ノ通)ヲ手交シ右ハ二十三日英仏政  
府ニ交付セル覚書写ニテ本日、伊、白政府ノ参考トシテ  
差上クル次第ナリ尚右覚書交付ノ際「チャーチル」ハ独逸  
代表者ニ対シ独逸政府ノ趣旨了解セリ本問題ハ是ニテ切上  
ケ委員会開催ノ談ヲ促進シ得ヘシト挨拶シ「ポアンカレ」  
ハ同氏一己ノ考トシテ「チャーチル」ト同趣旨ノ意見ヲ述  
ヘ正式ノ返事ハ閣議ニ諮リタル上ニ為スヘキ旨ヲ保留セリ  
大体右様ノ事情ニ付委員会開催ノ交渉モ速ニ進ム段取ナリ  
ト説明シ本件ハ「ゾルフ」大使ヨリモ申入ルル筈ナルモ当  
方ヨリモ電報方依頼セル趣ナリ

英、仏、伊、白、米ヘ転電セリ

(別電)

ベルリン  
発

279 昭和3年11月29日

在英分利臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

#### 財政専門委員会についての独国見解に関する 英・仏両国覚書について

別電

昭和三年十一月二十九日着在英分利臨時代

理大使より田中外務大臣宛第三二二号

財政専門委員会の構成等に関する独国覚書  
への英国回答案

ロンドン  
発

本省 11月29日後着

第三二二号

二十七日午後先方ノ求ニ応シ外務省中欧部長ト面会シタル  
処賠償専門委員会問題ニ関スル最近ノ経過ヲ話シタル上  
一ノ覚書ヲ手交シ其ノ内容ヲ帝國政府ニ転報方依頼セリ右覚  
書ハ先ツ債権諸国ノ非公式覚書ニ対スル独逸ノ回答(在独  
大使発閣下宛電報第一二二号)ヲ独逸大使ヨリ二十三日「チ  
ャーチル」蔵相ニ手交セルカ其ノ趣旨穩健ナルヲ以テ愈々  
委員会ノ構成ニ取掛ルヲ得ヘク其ノ第一歩トシテ去月三十  
日ノ独逸政府通牒ニ対シ回答ヲ發スルヲ適當トスル旨ヲ記

載シ次ニ独逸大使ハ別ニ

(一)委員会ニ付託スル事項ニ付テハ独逸政府ハ「ギルバート」案ヨリモ寿府「コミュニケ」文句其ノ儘ヲ希望シ「ギ」氏ニ於テ之ニ同意セルコト

(二)委員会ハ賠償委員会ニ於テ任命セス各国政府ニ於テ任命スルコト

(三)会議ノ場所ニ付テハ別段ノ希望ナク委員会自身ヲシテ決定セシムヘシ

トノ独逸政府ノ意向ヲ伝ヘタルカ右ニ対スル英国政府ノ意向ハ

(一)寿府「コミュニケ」ノ文句其ノ儘トシテ詳細ナルモノヲ採用スルモ可ナリ

(二)諸国政府ハ夫々其ノ専門家ヲ選定スヘク且委員会ハ諸国共同ニテ(collective act)予メ任命ス

(三)会議地ハ仏独政府ニ於テ承諾セハ便宜ニ從ヒ巴里及伯林双方トスヘシ

トスルニアル旨ヲ記載シ終リ二十月三十日ノ独逸政府通牒ニ対シテハ蔵相ハ別電第三二二二号案文ノ如ク回答シ度キ意向ナル処右ハ其ノ大体ノ趣旨ニ付日本政府及其ノ他ノ債権

国政府ニ於テ同意セラルルコトヲ条件トスルモノナルニ付

右ニ対スル日本政府ノ御意向及日本政府ニ於テモ同様ノ回答ヲ発セラルルヤ承知シタキ旨ヲ記載シアリ

尚右覚書ノ趣旨ハ仏、白、伊政府ニモ通シタルコト及各国主義上ノ意見一致セハ「ポアンカレ」氏ニ於テ種々ノ案文ヲ調製シ最終的決定ノ為ニ該表ヲ各国ニ廻付スルコトヲ多分承諾スルナルヘシト付言セリ

別電ト共ニ米、伊、仏、独、白ニ転電シ、仏ヲシテ連盟ニ伝ヘシム

#### (別電)

ロンドン 発

本 省 11月29日前着

第三二二二号

His Majesty's Government have considered views of German Government about appointment of committee of financial experts to make negotiations for complete and definite settlement of reparation problem.

His Majesty's Government agree with German

be preferred.

Finally, His Majesty's Government agree that Reparations Commission should be informed of appointment of Committee and invited to give to Committee during course of its work any assistance in their power. Questions about procedure after presentation of Committee's report must await examination of report by Government's concerned.

280 昭和3年12月1日 田中外交大臣より 在独国長岡大使宛(電報)

財政専門家委員会に関する独国意見書への我が方回答について

本 省 12月1日後発

第八七号

貴電第一〇五号ニ関シ

十一月一日在京独逸大使来訪シ貴電ト同趣旨ノ申入ヲ為シタル処右ニ対シ帝国政府ハ可成速ニ委員会事業ヲ開始スルニ異議ナク他ノ諸点ニ関シテモ大体異議ナク近ク関係国間

第二四二号

今回独逸政府ヨリ提議シ米リタル賠償問題解決ノ為ノ専門委員会開催ニ関シ帝國政府ハ債權国英仏伊白ニ対シ別電第二四三号ノ通り意見ヲ開陳シ置キ度キニ付貴任国政府ニ対シ右申入方可然御取計アリ度シ

本電別電ト共ニ本大臣ノ訓令トシテ英伊白ニ参考トシテ独及米ニ転電アリタシ

(別電)

第二四三号 本 省 12月1日後発

帝國政府ハ賠償問題ヲ公平ナル見地ニ立チテ一般的且決定の二解決スルコトカ唯ニ直接關係国ノ為メニ必要ナルノミナラス欧州延イテハ世界ノ平和ノ為メ極メテ重要ナルコトヲ確信スルニ付今般設ケラルヘキ専門委員会ノ事業ニ協力シ其ノ目的達成ノ為メ能フ限り貢献スヘシ而シテ本問題ノ一般的且決定の解決ノ為メニハ専門委員会ノ權限ヲ限局セサルコト固ヨリ望マシキ所ナルモ只賠償金分配ノ問題ハ事賠

ニ意見ノ一致ヲ見ルコトヲ希望スル旨尚帝國ハ本問題ノ重要ナルニ鑑ミ特ニ委員ヲ本邦ヨリ派遣シ度キ次第ナルヲ以テ委員会期日決定ニ際シテハ右距離ノ關係ヲ考慮セラレ度キ旨近ク口頭ニテ在京独逸大使ニ回答スルト共ニ参考トシテ本大臣発仏宛電報第二四三号ヲ手交スル筈  
尚我方委員ハ森賢吾及青木隆(日銀名古屋支店長)ノ二名内定セリ  
英、仏、伊、白、米ニ転電アリ度シ

281 昭和3年12月1日 田中外務大臣より  
在仏国安達大使宛(電報)

財政専門家委員会に關する我が方意見債權国

諸国へ通告方訓令

別電 昭和三年一月一日發田中外務大臣より在仏国安達大使宛第二四三号

財政専門家委員会に關する我が方意見

付記 昭和三年一月二八日付

財政専門家委員会に關する我が方意見についての高裁案

債權權国ノ内部關係ニシテ既ニ關係国間ニ外交上ノ折衝ニ依リ確定セル所ナルヲ以テ之ヲ専門委員会ノ議ニ付スルコトハ不適當ナルノミナラス却テ會議ノ成功ヲ妨クルモノナルヘシト信ス

(付記)

高裁案

対独賠償問題ニ關スル帝國政府ノ意見關係国

政府へ通告ノ件

本年九月十六日寿府ニ於ケル日英独仏伊白六国会議ノ結果対独賠償問題ノ完全且終局的解決ノ為ニスル右六国財政専門家委員会構成セラルコトナリ最近独逸政府ヨリ右ニ関シ具体的提案アリ英仏伊白ノ諸政府亦何レモ其賠償問題ニ関スル態度ヲ關係国ニ対シテ表明セル処此際帝國政府ニ於テモ賠償問題ニ關スル見解左記ノ通英仏伊白四国政府ニ通告シ他方十一月一日在京独逸国大使カ外務大臣ヲ来訪シ本件ニ関シ口頭ヲ以テ申入レタル処ニ対シテハ帝國力會議開催地ヨリ遠隔ノ地ニ在ルニモ拘ラス本問題ノ世界平和ニ影響スルノ大ナルヲ思ヒ特ニ委員ヲ本国ヨリ派遣セムト欲

スルニ因リ期日決定ニ際シテハ右距離ノ關係ヲ考慮セラレ度キモ本件委員会事業ヲ成ル可ク速ニ開始スルコトニ付テハ異議ナク他ノ諸点ニ関シテモ大体異議ナク近ク關係国間ニ意見ノ一致ヲ見ルコトヲ希望スル旨ヲ口答ヲ以テ同大使へ回答スルト共ニ前頭四ヶ国政府ニ対スル帝國政府見解ヲ参考トシテ交付スル様致度  
右仰高裁

昭和三年十一月二十八日

記

帝國政府ハ賠償問題ヲ公平ナル見地ニ立チテ一般的且決定の二解決スルコトカ唯ニ直接關係国ノ為メニ必要ナルノミナラス欧州延イテハ世界ノ平和ノ為メ極メテ重要ナルコトヲ確信スルニ付今般設ケラルヘキ専門委員会ノ事業ニ協力シ其ノ目的達成ノ為メ能フ限り貢献スヘシ而シテ本問題ノ一般的且決定の解決ノ為メニハ専門委員会ノ權限ヲ限局セサルコト固ヨリ望マシキ所ナルモ只賠償金分配ノ問題ハ事賠償債權国ノ内部關係ニシテ既ニ關係国間ニ外交上ノ折衝ニ依リ確定セル所ナルヲ以テ之ヲ専門委員会ノ議ニ付スルコトハ不適當ナルノミナラス却テ會議ノ成功ヲ妨クルモノナ

(欄外記入)

ルヘシト信ス

(欄外記入)

大蔵省ト協議済ミ

編 注 本通告案は原案どおり大臣決裁を得、本文書別電のとおり田中外務大臣より在仏国安達大使宛第二四三号として打電された。

282 昭和3年12月3日 田中外務大臣より  
在英國佐分利臨時代理大使宛(電報)

財政専門家委員会の構成等に関する英國の対  
独回答案に我が方異議なき旨訓令

本 省 12月3日後発

第二〇三号

貴電第三二一一号ニ関シ

英案文ニ関シテハ帝國政府ニ於テ異議ナシ尤モ我方ハ差当  
リ独宛往電第八七号ノ通在京独逸大使ヘ口頭ヲ以テ回答ス  
ルニ止ムル意向ナリ尚我方ハ本邦ヨリ委員ヲ派スル次第ナ  
ルニ付開会期日ニ付キテハ距離ノ關係ヲ考慮セラレ度キ旨  
任國政府ヘ申入レラレ度シ

本電本大臣ノ訓令トシテ仏ニ参考トシテ独伊白ニ転電アリ  
度シ

283 昭和3年12月19日 在仏国河合(博之)臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

財政専門家委員会の構成等に関する關係国コ  
ミュニケ案について

別 電 昭和三年十二月一九日着在仏国河合臨時代理  
大使より田中外務大臣宛第四四二号  
財政専門家委員会の権限案

パ リ 発  
本 省 12月19日後着

第四四一号

往電第四三〇号に關シ

仏國政府ヨリ本十八日付公文ヲ以テ其ノ後独逸政府ハ十月  
三十日ノ覚書ニ対シ關係列國ヨリノ回答ヲ予期シ居ラス寧  
ロ財政専門家委員会ノ構成ニ対シ執ルヘキ処置ニ付關係國  
ニ於テ意見ノ一致ヲ見タル点ヲ列挙セル「コンミュニケ」  
ヲ發表セラレムコトヲ希望シ居ルコト明カトナリ別電ノ通

既ニ独逸政府ノ同意セル「コンミュニケ」(往電第四四三  
号)及委員会ノ権限案(別電第四四二号)ハ同日仏國政府ノ  
閣議決定ヲモ見タルヲ以テ他ノ關係國ニ於テ異議ナキニ於  
テハ来ル二十一日午前中ニ夫々關係國政府ニ於テ發表スル  
コトトシ尚米國委員招請ニ關シテハ在米英國大使ヲ經テ其  
ノ処置ヲ執ルコトトスル様致シタキ旨申越セリ右「コンミ  
ュニケ」案ハ曩ノ対独回答案ヨリモ我方ノ意見ニ近キノミ  
ナラス権限案モ既ニ独逸側ノ同意セルモノナルニ鑑ミ帝國  
政府ニ於テ他ノ關係國ニ於テ異議ナキ限リ仏國政府ノ申出  
ニ異議ナキ旨回答スヘキニ付御承知置相成タシ  
前記公文写郵送ス本電別電ト共ニ英、米、伊、白、独ニ転  
電セリ

編 注 本件コンミュニケはその後關係各國により修正され、  
最終的に第284文書付記のとおり公表された。

(別 電)

パ リ 発

本 省 12月19日後着

第四四二号

Les gouvernements allemand, belge, français,  
britannique, italien et japonais en donnant suite à la  
décision de Genève du 16 septembre 1928, dans laquelle  
avait été convenue l'institution d'un Comité d'Experts  
financiers indépendants, ont décidé de charger celui-ci  
d'élaborer des propositions pour un règlement complet  
et définitif du problème des réparations.  
Ces propositions devront comporter un règlement  
des obligations qui résultent des traités et Accords  
existants entre l'Allemagne et les Puissances  
créancières.  
Le Comité devra adresser son rapport aux  
gouvernements ayant participé à la décision de Genève  
ainsi qu'à la commission des Réparations.

284 昭和3年12月21日 田中外務大臣より  
在仏国安達大使宛(電報)

専門家委員会の構成等に関する關係国コミュ  
ニケ公表について

付 記 財政専門家委員会の構成等に関する関係国「  
ジュニケ

本 省 12月21日後発

第二六六号

貴電第四四一号ニ関シ

一、「コムミュニケ」ハ二十一日午前公表ノ筈<sup>(編注)</sup>

二、森氏一行出発ノ都合アルニ付委員会予定日<sup>(編注)</sup>至急御問合  
セノ上回電アリ度シ森氏ハ何時ニテモ一週間ノ予告ニテ  
出発シ得ヘシ

英、独、伊、白ニ転電アリ度シ

編 注 本件コムミュニケは英、仏、独、伊、白各国におおづつは  
二十一日「我々が国におおづつは二十一日二十四日公  
表された。

(付 記)

### TEXTE DU COMMUNIQUÉ

Après avoir recueilli l'adhésion de tous les  
Gouvernements intéressés, Monsieur Raymond  
Poincaré, Président du Conseil des Ministres et

3.- Le Comité se réunira provisoirement à Paris le  
plus tôt possible. La décision définitive sur le lieu où il  
jugera utile de siéger lui restera réservé.

4.- Le Comité recevra de la part des six  
Gouvernements, conformément à l'Accord précité de  
Genève du 16 septembre dernier le mandat "d'élaborer  
des propositions pour un règlement complet et définitif  
du problème des Réparations". Ces propositions devront  
comporter un règlement des obligations qui résultent des  
Traités et Accords existants entre l'Allemagne et les  
Puissances créancières. Le Comité adressera son  
rapport aux Gouvernements ayant participé à la  
décision de Genève ainsi qu'à la Commission des  
Réparations.

5.- En ce qui concerne la nomination des Experts, il  
sera procédé de la manière suivante :

Les Experts des Puissances créancières ayant  
participé à la décision de Genève seront désignés par les  
Gouvernements de ces Puissances et nommés, selon la

Monsieur von Hoesch, Ambassadeur d'Allemagne à  
Paris, en examinant la question de la mise sur pied du  
Comité des Experts prévu par la décision de Genève du  
16 septembre 1928 relative au règlement du problème  
des Réparations, sont tombés d'accord sur ce qui suit :

1.- Il est hautement désirable, dans l'intérêt général,  
qu'outre les Experts à désigner par chacun des six  
Gouvernements ayant participé à la décision  
susmentionnée de Genève, des ressortissants des  
Etats-Unis prennent également part aux travaux du  
Comité des Experts.

2.- Le Comité devra, suivant l'exemple du premier  
Comité d'Experts qui fut institué en novembre 1923, se  
composer d'Experts indépendants, jouissant d'une  
considération internationale et de l'autorité dans leurs  
propres pays et n'étant pas liés par des instructions de  
leurs Gouvernements. Le nombre des membres sera de  
deux pour chaque pays. Il est cependant entendu qu'ils  
pourront s'adjoindre des suppléants.

convenance de ces Gouvernements, par ceux-ci ou par la  
Commission des Reparations.

Les Experts de l'Allemagne seront nommés par le  
Gouvernement allemand

Des dispositions sont prises en vue de déterminer la  
méthode la plus propre à assurer la participation  
d'experts américains.

285 昭和3年12月25日 在米国出淵大使より  
田中外交大臣宛(電報)

財政専門家委員会への米国専門家の参加につ

いて

フシントハ 発

本 省 12月25日前着

第四〇〇号

仏発閣下宛電報第四四一号ニ関シ

在当地英国大使ヨリ二十四日付書翰ヲ以テ「本国政府ノ訓  
令ニ基キ本朝國務長官ニ対シ『コムミュニケ』(第五項ヲ英

発閣下宛電報第三六六号英国案ノ如ク修正セル外仏発閣下宛電報第四四三号ノ通）及権限案（仏発閣下宛電報第四四一号ノ通）ヲ手交スルト共ニ米国専門家参加方ニ関スル米国政府ノ意向ヲ尋ネタル処今日午後長官ヨリ大統領ト協議ヲ遂ケタル趣ヲ以テ大統領ハ右参加ニハ異存ナキモ是等米国専門家ハ六国政府ヨリ選出セラルル方可ナルヘク将又米国専門家ヲ本件委員会ノ委員長トスル事ハ面白カラストノ意向ナル旨返事シ来レリ」トノ趣旨ヲ申越シタリ  
英ニ転電シ仏、伊、白、独ニ転報セシム

286

昭和4年1月9日

田中外務大臣より  
在英仏独伊白各大使宛

対独賠償専門委員会我が方代表への内訓につ

いて

条三機密合第七号

昭和四年一月九日

外務大臣男爵 田中 義一

在英国臨時代理大使 佐分利 貞男殿

在仏国特命全權大使 安達 峯一郎殿

一、貴委員等ハ対独賠償専門委員会開催地駐劄帝國在外使臣ヲ通シ帝國政府ト常ニ連絡ヲ保タル様セラレ度シ  
一、重要事項ニ関シテハ右帝國在外使臣ヲ通シ帝國政府ヘ報告セラレ度シ

編 注 本別紙は第281文書別電と同一内容につき省略。

287

昭和4年3月(8)日

在仏国河合臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

対独賠償専門委員会開会以来の国際決済銀行

設置問題を中心とする審議経過について

パ リ 発

本 省 3月8日前着

第六七号  
森委員ヨリ

賠專第一号

一、専門委員会ハ三月六日迄ニ既ニ十六回会合シタルカ最重要問題タル年金額年数ニ関シテハ双方腹案余リニ甚シク懸隔アルニ鑑ミ(会議ノ席上ニハ表明セサルモ独逸委員ハ年金額八億馬克見当ヲ腹案トスルコト明カトナリ)

在独国特命全權大使 長岡 春一殿  
在伊国特命全權大使 松田 道一殿  
在白国特命全權大使 永井 松三殿

対独賠償専門委員会帝國側委員ニ対スル内訓

ニ関スル件

本件委員会ニ本邦側専門委員トシテ出席スヘキ森賢吾及青木隆ニ対シ別紙ノ通内訓致シ置キタルニ付御承知相成度右申進ス

(別 紙)

昭和三年十二月二十八日

外務大臣 田中 義一

大蔵大臣 三土 忠造

対独賠償専門委員会委員

森 賢吾 殿

青木 隆 殿

記

一、対独賠償問題解決ニ関スル専門委員会構成ニ際シ帝國政府ハ別紙ノ通り其見解ヲ英、仏、伊、白各政府ニ通告シ独國政府ニハ参考トシテ之ヲ通知シ置タリ

直ニ本問題ノ核心ニ触レテ論議ヲ繼續スルハ會議ヲ成功ニ導ク所以ニアラスト為シ先ツ之カ道程トシテ賠償債務支払ヲ容易ナラシムル方法及之ニ必要ナル組織機關等ニ付考究ヲ進メ諸員ノ非公公式意見ノ外特ニ証券化問題相談会、transfer 分科会、現物引渡分科会等ニ於テ各般重要事項ノ精査ヲ進メ今や諸案漸ク具体化シ来リタル処右諸案ハ何レモ政治債務タル賠償債務ヲ商業債務化スルコト及賠償問題解決ニ関連シ世界經濟ノ安定進行ヲ計ルコトヲ要諦トシ賠償ニ関スル既設政治的機關「ドーズ」案ニ依ル諸機關ノ撤廃若ハ根本的革命ヲ加フルコトニ付諸員ノ意向大体一致シタリ

二、依テ議長ハ三月四日右ノ趣旨ニ依ル諸案ヲ統一融合セル具体的成案ノ起草ヲ専門家(拙電森第三〇号参照)ニ委託シ其ノ結果国際決済銀行(Bank for International Settlements)設置案昨六日ノ会合ニ提出セラレ委員会ハ本案ニ付慎重考究スルコトナレリ

本案ハ固ヨリ幾多ノ修正ヲ免レサルヘキモ之ヲ基調トシテ確定案ヲ得ル場合年金額ノ決定ヲ容易ナラシムルハ勿論新機關ハ国際金融上有力ナル地位ヲ占メ世界經濟上重

要ノ機能ヲ有スヘク本邦ニ取りテモ頗ル注意スヘキ問題ナリト思考ス

### 三、国際決済銀行案ノ極メテ梗概ヲ示サハ左ノ如シ(該案原文別途郵報)

(一)新銀行ハ賠償債權ノ取立分配其ノ他賠償証券ニ関スル事項ニ付 trustee トシテ一切ノ業務ヲ営ミ賠償履行ノ円滑事務ノ統轄ヲ計ルヲ主タル目的トスルト共ニ各國中央銀行協調ノ組織ナリ(中央銀行ニ関スル資金融通並ニ預金ノ受入為替取引金ノ earmarking 等)世界通商ノ促進ヲ其ノ付帶的使命トスル事

#### (二)賠償債務ヲ

第一種無条件現金対外支払債務

第二種条件付現金対外支払債務

第三種条件付引渡債務

ニ分チ第一種第二種ハ証券ノ形式ニ依リ新銀行保管シ隨時 mobilize ス尤モ第二種ハ独逸ノ承諾ヲ要ス

尚第二種債務ニ付対外支払不能ナル場合独逸ハ馬克ヲ以テ帝国銀行ノ新銀行勘定ニ払込適宜有価証券ニ投資運用ス第三種債務ニ付テハ新銀行ハ同額ノ証券

(warrants 期限八十年ヲ最長トシ)ヲ保管シ新銀行又

ハ債權国政府ハ独逸品輸入業者ニ対シ何時ニテモ必ス要額ヲ分割売出輸入品代金決済ニ充当セシムルノ方法ヲ執リ「ドウズ」案現物引渡方法ノ簡便改善ヲ期ス

(三)資本金差当り四億乃至五億馬克(必要ニ応シ五〇億馬克ノ限度迄増加)独逸政府ヨリ債務ノ一部トシテ払込株券ハ一定ノ割合ニ依リ債券国政府ニ分配シ債券国政府ハ之ヲ自国中央銀行又ハ自国民ニ譲渡スルコトヲ得

(四)重役ハ本委員会ニ参加セル各國及葡萄牙、羅馬尼、塞比耳、希臘、波蘭中央銀行各總裁ノ指命ニ依ル候補者(重役数ノ四倍)名簿中ヨリ株主總會ニテ選定ス但シ重役定員ハ本會議参加国ヨリハ各二名、其ノ他ノ国ヨリハ各一名トス各國官吏ハ重役タルノ資格ナシ

#### (五)新銀行ニハ

(一)金融(委員ハ關係諸国中央銀行總裁又ハ其ノ代理)

(二)現物引渡(委員ハ工業家)

(三)証券化(委員ハ銀行家)

ノ各部門ニ付諮問委員會ヲ置ク其ノ他事項ニ付テモ亦必要ニ応シ之ヲ増置ス

英、米、伊、白へ暗送セリ

編注 本委員会は二月二日に第一回正式會議を開催して

おり、以後その審議状況については森委員より大蔵大臣宛に逐次報告されていたが、二月二六日付田中  
外務大臣より在仏安達大使宛第三二号電により、賠償金総額や分配率等我が国の利害に直接關係する重要問題については會議地駐在の我が方公館を通じて外務大臣宛に報告するよう森委員に指示がなされた。

昭和4年3月30日 在仏国安達大使より  
田中外務大臣宛(電報)

### 賠償年金問題討議に関する英仏伊白四国覚書 とヤング委員長の基礎案について

付記一 昭和四年三月三〇日着在仏国安達大使より田

中外務大臣宛電報第九九号

賠償年金問題討議に関する英仏伊白四国覚書

二 昭和四年三月三〇日着在パリ森(賢五)委員よ

り三土(忠造)大蔵大臣宛電報森第四〇号

ヤング委員長提議の賠償年金問題討議のため

#### の基礎案概要

パ リ 発  
本 省 3月30日前着

第九八号

森委員ヨリ

賠專第七号

二十八日年金問題討議ニ関スル英仏伊白四国側覚書(賠專第八号)ノ提出アリ委員長ハ右覚書ニ関シ左ノ提議ヲ為シ各委員ノ同意ヲ得タリ

(一)今直ニ討議スルヨリモ「イースター」休暇中ニ慎重考究再開ノ上諸員ノ意見ヲ開陳スル事

(二)右ニ異議ナケレハ委員長トシテ本件討議ノ進捗ニ貢獻シタキ旨ヲ以テ起草シタル別個ノ覚書(別電森第四〇号)

ヲ個々ニ提出ス依テ前記諸国委員覚書ト一括考究セラレ休会后ノ会合ニ於テ討議ノ基礎トセラレ度事尚「シヤハト」ハ從來會議ノ内容カ新聞ニ漏レ来ルノ事実ヲ指摘シ兩覚書ノ何レカ外部ニ発表セラルルカ如キ事アラハ委員會会ハ不慮ノ決裂ヲ見ルカ如キ重大ナル事態ヲ生スルヤモ計ラレスト述ヘタリ右ハ諸国覚書ノ内容ニ徴シ外部ヘ

ノ發表力特ニ独逸側ニ取り頗ル不利ノ影響アリト認メタルニ依レリ

英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

編 注 二月九日の非公式會議において米国委員のオーエン・ヤング(Owen Young)が委員長に選出された。

#### (付記一)

パ リ 省 3月30日前着

本 省 3月30日前着

第九九号

森委員ヨリ

賠專第八号

年金問題ニ関スル四債権国ノ覚書内容左ノ如シ

第一、年金問題討議ノ基礎トシテ左ノ手續ヲ suggest セントス

(一) 繁榮指数ノ利益ノ一部ニ代フルニ債権国ノ国際決済銀行利益分配参加及新銀行ノ組織ニ依リ実現シ得ラルヘキ対独債権ノ一部ノ証券化ヲ以テスル事

(二) 現在ノ標準年金ハ左記二項目ノ所要ヲ現実ニ充ツツア

得ヘシ

(三)<sup>(2)</sup> 第一部新年金ハ之ヲ二種ニ区分シ其ノ第一種ハ対米債務カ支払猶予ノ条件付ナル場合ニハ之ニ準シ独逸ニ対シ其ノ海外送金ニ猶予ノ条件ヲ付シ第二種ハ無条件ニ海外送金ヲ為スヘキモノトス

新国際決済銀行ノ利益ノ一部ハ独逸ニ帰属セシメ之ヲ蓄積シ若シ三十七年後対米債務未完済ナラハ其ノ未償還年金ノ全部又一部ニ充当セシメ右蓄積金ヲ以テ尚不足スル金額ニ付テハ独逸ハ予算ヨリ支出シ補填スルノ義務アルモノトス

第三、前記(b)ニ関シテハ

(一) 国内的所要ニ充当スヘキ新年金ノ第二部トシ独逸ハ総テ無条件海外送金ヲ為スノ義務アリ且ツ全部証券化シ得ルモノトス

(二) 年金年数ハ債権諸国ニ於テ最長五十八年ト為シ得ルモ一面現在価格ニ変更ヲ加ヘサルニ於テハ之ヲ三十七年ニ換価短縮シ得

(三) 債権諸国ノ専門委員ハ自国ノ国内的必要ヲ熟知セルヲ以テ第二部年金ニ対スル各国ノ割当額ノ減額ニ付考究

ルモノト認メラレ居ル処新年金ハ之ヲ適當ニ調整按排スル事

(a) 欧州債権諸国ノ対米債務ニ充当スヘキ部分

(b) 普通人民ノ受ケタル損害ノ本損害アルニ依リ連合

債権全部ヲ正當ナルモノト為スヨリ生シタル国内

所要ニ充当スヘキ部分

第二、前記(a)ニ関シ

対米債務還償ニハ五十八年間ニ亘リ毎年平均十三億五千万馬克ヲ必要トス右年賦金ハ現在ニ於テハ八億七千万馬克ニ過キサルモ右償還期限ノ最終ニ近ツク時ハ十七億馬克ニ増加ス

右十三億五千万馬克ト八億七千万馬克トノ差額ハ欧州債権国諸国ニ於テ當分剩余トシテ之ヲ留保シ置ク事トナルヘキモ新計画ニ於テハ債権諸国ハ将来ノ年金ヲ証券化スルノ途ヲ開キタルニ鑑ミ右一時的ノ超過金額ヲ当初ニ留保セス其ノ相当額支払ハ諸国ノ米國ニ対シテ為スヘキ年賦額及年度ニ相応シテ調整割當ツル事ニ同意シ得ヘシ斯クスレハ新年金ノ第一部ハ当初ニ於テハ十三億五千万馬克ヨリ八億七千万馬克ニ減額スル事ヲ

スヘシ

英、米、独、伊、白ヘ暗送セリ

#### (付記二)

パ リ 省 3月30日前着

大蔵省 3月30日前着

森第四十号

年金問題ニ関スル最近經過並ニ昨二十八日会合ノ状況委細賠專第六号乃至第九号ヲ以テ申報セリ尚昨日会合ニ於テ委員長ノ声明セル覚書概要左ノ通

一、委員会ハ今日マテ賠償金問題確定且最終的解決ヲ目的トシテ同問題ヲ政治ノ圈内ヨリ金融ニ移籍セシムル為ニ新国際銀行ノ如キ機關ノ組織ヲ考慮シ来レルカ今や年金ノ計數ヲ考慮スヘキ時期ニ達セリ

二、然ルニ本問題ニ最モ深く利害關係ヲ有スル国々ハ offer ト認メラルルヲ恐レ自ラ提案ヲ為スヲ躊躇セルヲ以テ委員長ハ會議ノ進捗ヲ助クルカ為不本意ナカラ自ラ討議ノ基礎トナルヘキ或計數ヲ自己ノ責任ニ於テ suggest スル事トナリ

三、右ハ大部分各委員トノ非公式会合ニ依リ得タル所ヲ討議シテ作成セル計数ナルカ各国委員各特殊ノ立場ヨリ見テ恐ラク不満足ヲ感スル事アルヘキモ是等計数ハ果シテ討議ノ価値アルヤ否ヤニ関シ寧ロ一個ノ重大ナル任務ナリ

四、先第一ニ大債権国ノ受領額ヲ考慮ノ要アルヘク其ノ決定ヲ見ル迄小分配率国ノ問題ハ後ニ譲ルヲ得ヘシ蓋シ大債権国ノ所要ヲ充シ得サルニ於テハ他ヲ論スルモ無益ナルヘキヲ以テナリ若シ大債権国ノ所用ニシテ充サレシカ本問題ハ本委員会ノ関スル限り大債権国タルト否トニ拘ハラス総テヲ包括シ強大国問題トシテ正義ト公平ノ原則ニ依リ解決セラルヘシ

五、右ノ点ヲ考慮ニ置キ委員長ハ四大債権国ニ左ノ結果ヲ齎スヘキ計数ヲ本委員会ニ於テ考究センコトヲ suggest スルモノナリ

(一) 仏国ノ為ニハ其ノ対外支払純所要額及最モ公平ナル基礎ニ於テ決定セラレタル其ノ現在価格四〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇法ヲ下ラサル金額(註損害賠償)

(二) 伊国ノ為ニハ其対外支払純所要額及其損害ヲ考慮シ合

シ後ニ多クスヘキヤ或ハ当初多クシ後少クスヘキヤ等ノ問題モ今後討議研究セラルヘキ所ナリ

八、最後ニ右 suggestion ハ単ニ成果ヲ齎スヘキ討議ノ範疇ヲ定メムトスルモノナルコトヲ強調ス從テ委員長自身モ各員ト同様終局ノ数字如何ニ付テハ総テノ留保ヲナサントスルモノナリ

289

昭和4年3月31日 在仏国安達大使より  
田中外交大臣宛(電報)

英仏伊白四国覚書およびヤング委員長基礎案  
による我が方利害について

パ リ 発  
本 省 3月31日前着

第一〇〇号

森委員ヨリ

賠專第九号

一、賠專第七号詳報二十八日ノ会合ニ先チ本員ハ債権国側覚書ニ関シ英国委員ト会談ノ際本覚書ハ対米債務ノ償還ニ重キヲ置クカ如キ構成ニシテ一見「スパー」率変更ノ

理的ニ定メタル幾分ノ追加金額

(三) 白国ノ為ニハ其対外支払純所要額(尤之ニ追加スル事アルヘキ金額即所謂麻決済及賠償所要額ハ独白間ノ協定ニ拠リ処理セラルヘシトノ前提ノ下ニ差当除外)

(四) 英国ノ為ニハ其対外支払純所要額(過去ニ於レル其受領額ニ依リ其対外支払額ニ不足シタル金額ハ差当除外)

六、新年金ハ前記各項金額ニ左記所要額ヲ加算シタルモノナルヘシ

(イ) Dawes 外債ノ優先的元利払

(ロ) 占領軍費用及本計画ノ実施費

(ハ) mixed claims commission ノ決定ニ依ル必要金額

(ニ) servia 及其他ノ諸債権国ノ対外支払及賠償ニ必要トスル適当金額(本件ハ追テ討議ニ付ス)

七、委員長ハ右ノ結果ヲ生スヘキ年金額及年数又ハ年金ノ如何ナル部分カ transfer 猶予ヲ与ヘラルヘキヤ或ハ実物引渡ニ依リ支払ハルヘキヤニ付 suggestion ヲナサス此等ハ今後ノ討議ニ依リ漸次具体化セラルヘキ事項タリ又年数決定ノ問題ハ年金総額ノ配置ノ問題額ハ当初少ク

結果ヲ生スル虞アル点ヲ指摘シ若シ斯クノ如キ予期ノ下ニ作成セラレタリトセハ本員ハ同意スルヲ得スト答ヘタルニ stamp ハ英国ノ見地ヨリシテハ斯ノ如キ事ヲ予期シ居ラスト答ヘ Addis モ「スパー」率ノ変更ヲ見ルカ如キ場合ニハ英国ハ抗議スヘシト言ヒ同席ノ英国委員輔助 Pilsent (英国大蔵省官吏) モ斯ノ如キ結果ニ対シ英国ハ不賛成ナリト付言シタルカ本員ハ小分配率国ノ大部分ハ本会議ニ参加シ居ラス然ルニ彼等ノ利害關係ヲ欠席裁判ヲ以テ不利ニ決定スルカ如キ外観ヲ採ルハ好マシカラサルノミナラス日本政府ノ如キ「スパー」率維持ニ関シ特ニ列国ニ対シ通告声明セル事実ニ言及シ置キ(因ニ本員ハ本邦側要求ニ付委員長ニ対シテモ曩ニ会談ノ機ヲ以テ特ニ言及シ置ケリ) 英国委員ハ此ノ点ニ付テハ委員長ノ提案スヘキ覚書中ニ特ニ留意シアルヲ以テ安心ナリト答ヘ準備會議ノ際委員長ハ債権国覚書ハ英、仏、白、伊ノ作成セル覚書トシテ照会シ尚委員長ハ其ノ覚書中ニ小分配国ノ地位ニ充分考慮スルノ要アル点ニ言及シ居レリ

(2) 二、両覚書ハ単ニ討議ノ題目ヲ提供スルノ趣旨ニシテ具体的二年金額ヲ表示セス今後討議ニ依リ漸次具体化スヘキ

モノニシテ今ヨリ本邦ニトリテノ利害得失ヲ予断スルハ時機尚早ノ感アリ例ヘハ債権国覚書ノ要項トシテ年金算出ノ基礎ヲ二部ニ分チ第一部ハ対米債務償還ニ必要ナル額即チ毎年平均十三億五千万馬克(實際ノ所要年賦金ニ応シ独逸ノ支払フヘキ各年ノ年金額ヲ按排ス)又第二部ハ損害賠償所要額ト為セル処ハ独逸ノ支払フヘキ年金総額ノ決定如何ニ依リテハ第二部ニ充当スヘキ金額ニ減少ヲ見ルノ結果トナルヲ保セサルカ如キモ第一部年金ハ三十七年間ニ限り爾後年度ニ於ケル未償還対米債務ニ付テハ独逸ノ取得スヘキ新銀行ノ利益分配金及独逸予算ノ支出ニ依リ更ニ整理スヘキ事トナリ居ルヲ以テ事実対米債務ノ金額ヲ独逸賠償年金中ヨリ処弁スルノ趣旨ニ非サル点注意ヲ要ス尚又第二部年金ニ付テハ全部無条件海外送金ノ義務ヲ付シ本年金ハ証券化シ繰上ケ取得シ得ルノ便法ヲ付与シタルニ鑑ミ第一部年金ヨリモ有利ナリト謂フヘシ

三、要スルニ前記両覚書ヲ以テシテハ未タ各国分配金額及分配率ニ及ホス影響ハ未確定ノモノト謂フノ外ナク兎ニ角本件ニ関シテハ本員トシテハ最善ノ注意ヲ払ヒ居ル次

国委員各別ニ「シヤハト」ト会谈、各自国所要額ヲ提出シタルカ之ヲ合算シタル年金ハ遙ニ「ドウズ」年金二十五億馬克ヲ超過シ独逸側ハ到底受諾シ得ストナセルノミナラス委員長ハ勿論諸国委員自身モ亦要求緩和ノ必要ヲ認め此ノ趣旨ニ依リ右四債権国ハ独逸側ニ提出スヘキ年金案ヲ作成セリ本年年金案ニ拠ル時ハ独逸ハ今後三十七年間平均二十一億九千八百万馬克(外ニ白耳義馬克決済ノ為二千五百万馬克)ヲ支払ヒ尚三十八年以後二十二年間対連合国残存債務支払所要相当額ヲ支払フコトトナリ居レリ(森第四二号別電参照)

二、右四国年金案ハ四月十三日第二十六回会合ニ於テ議題トナリタル処独逸側ハ何等意見ヲ表示セス

仏国委員ハ本案ヲ基礎トシテ輿論ノ帰趨ヲ窺知セントノ意図ヨリ直ニ之カ公表方提議アリ委員長始メ諸員ハ独逸ノ受諾スル見込ナキ本案ノ公表ハ会議ヲ決裂ニ導クノ惧アル冒險の行為ナルコト内心了知セルニ拘ラス英、伊、白諸員ハ行懸上之ニ賛成シ一方独逸委員モ対抗上之ニ賛意ヲ表シ空氣頗ル險惡依テ本員ハ本案公表ノ可否及本案ノ考究ヲ四月十五日迄延期方強ク主張シ結局之ニ決定兎

第二付右御了承相成度シ  
英、米、独、伊、白へ暗送セリ

290

昭和4年4月16日 在仏国安達大使より  
田中外交大臣宛(電報)

## 賠償年金問題の審議状況について

付記一 昭和四年四月一四日着在パリ森委員より三土

大蔵大臣宛電報第四二号別電

英仏伊白四国による賠償年金案要旨

二 昭和四年四月一七日着在パリ森委員より三土

大蔵大臣宛電報第四三号

ヤング委員長作成の賠償年金案要旨

パ リ 4月16日後発  
本 省 4月17日前着

第一一一号

森委員ヨリ

賠專第一〇号

最近ノ会議経過左ノ通

一、年金問題ニ付テハ既報ノ如ク先ツ仏、英、伊、白、四

二角危機ヲ脱セリ(散会后委員長ハ本員ニ謝意ヲ述ヘ諸国委員モ右決定ニ対シテ何レモ満足ノ意ヲ表セリ)

三、四月十五日第二十八回会合「シヤハト」ヨリ四十五年年金案ニ対スル質問及右年金案ヲ受諾シ得サル旨ノ陳述アリ委員長ハ之ヲ以テ最後ノ言明ト認メス右質問ニ対スル答弁ノ為ニ更ニ四月十六日会合スルコト及四十五年年金公表ハ見合ハス事並小分配率債権諸国ノ地位及需要ヲ考慮スル為少数委員ノ会合ヲ開キ必要ニ応シ委員会ノ意向ヲ會議ニ参加セサル国ニ対シテ非公式ニ通報スル事ニ決定尚「シヤハト」ハ「イースター」前提出ノ委員長覚書(森第四〇号)ヲ基礎トセル年金案ノ提出方ヲ委員長ニ要求シ委員長之ヲ承諾セリ

四、前記委員長ノ年金表ハ委員長ニ於テ四十五年金表トハ別個ニ自己ノ覚書ヲ基礎トシテ作成シ(森第四三三号)先週債権国側ニ内示シ未タ独逸委員ニハ提示スルニ至ラサリシモノニシテ四十五年金表ニ比シテ年金平均約一億馬克減独逸側ニ有利トナリ居ル為独逸側ニ於テ之カ提出ヲ要求シタル次第ナリ

英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

(付記一)

森第四十二号別電一

パリ 大蔵省 4月14日着 発

四大債権国年金案要点左ノ通り

(一) 年金ハ初年ノ十八億麻ヨリ毎年二千五百万麻乃至七千五百万麻迄増加シ十九ケ年目ニ最高二十四億五千万麻トナリ三十七ケ年目迄同額トス其後ハ五十六ケ年目迄十七億二百万麻乃至十八億八千二百万麻ニシテ五十九ケ年目ノ九億千三百万麻ヲ以テ終ル(最初三十七ケ年間ニ重キヲ置ク仕組ニシテ其間ノ年金ハ五分半ノ利率ニ依リ毎年均等支払トスルトキハ二十一億九千八百万麻ニ相当ス但右ノ外麻決済ノ為白国ニ対シ二千五百万麻ノ年金ヲ支払フコト)

(二) 右年金内訳左ノ通り

(イ) Dawes公債ノ優先支払二十ケ年間(初年〔最高〕二十ケ年目六千九百万麻〔最低〕)

森第四十三号

パリ 大蔵省 4月17日着 発

委員長覚書(森第四十号参照)ノ趣旨ニ基キ委員長ノ作成シタル年金表要点左ノ通り

(一) 年金ハ初年ノ一、七五〇、〇〇〇、〇〇〇麻ヨリ十五年目迄毎年二五、〇〇〇、〇〇〇麻乃至五〇、〇〇〇、〇〇〇麻ヲ増シ十六年目ニハ二、四六四、〇〇〇、〇〇〇麻トナリ三十七年目ニハ最高二、五〇六、〇〇〇、〇〇〇麻ニ上リ其後五十六年目迄ハ一、五九二、九〇〇、〇〇〇麻乃至一、七三二、三〇〇、〇〇〇麻ニシテ五十九年ノ九一三、三〇〇、〇〇〇麻ヲ以テ終ル(最初三十七年間ノ年金ハ五分半ノ利率ニ依リ毎年均等支払トスルトキハ二、一〇五、〇〇〇、〇〇〇麻ニ相当ス)

(二) 右年金内訳左ノ通り

(イ) Dawes公債ノ優先支払二十ケ年間(金額ハ森第四十二号所報ト大差ナシ)

(ロ) 占領軍軍事費用残額支払十五ケ年間(初年八五、〇〇〇)

(ロ) 其他賠償ニ優先スル支払五十九ケ年間(初年六千九百万麻最高一億八千七百万麻最低千九百万麻)

(イ) 連合国対米債務支払所用額ニ相当スル賠償支払五十九年間(初年八億五千八百万麻最低五十五年目十五億九千五百万麻最高)

(ニ) 残額ハ損害ノ賠償ニ充當シ其年金ハ三十七年間(初年七億八千五百万麻最高八億七千九百万麻最低六億二千万麻)

(三) 独逸経済ヲ考慮シ右年金額ノ内七年間ハ(初年六億麻逡減シテ七年目三億麻)実物引渡ニ依リ支払ヲ認メルコト  
(四) 右年金以外ニ追テ協定スヘキ金額ヲ新銀行ノ資本金トシテ払込ムヘキ義務アルモノトシ(右払込ニ対スル持分ハ債権国及独逸ニ於テ分割ス)

(五) 尚本案説明書ニ於テ

(イ) 本年金ハ Dawes 年金ニ比シ著シキ減額ナルコト及

(ロ) 本年金ハ四大債権国ノ讓歩ノ最大極限ヲ示スモノナルコトヲ陳述セリ

(付記二)

〇、〇〇〇麻〔最高〕十五年目四三、七〇〇、〇〇〇麻〔最低〕

(イ) mixed claims 支払ニ充當分五十九ケ年間(初年一八、七〇〇、〇〇〇麻〔最低〕五十五ケ年目三六、九〇〇、〇〇〇麻〔最高〕)

(ニ) 連合国対米債務支払所要額ニ相当スル賠償支払五十九ケ年間(金額ハ森第四十二号所報ト大差ナシ)

(ホ) 残額ハ損害ノ賠償ニ充當スルモノニシテ其ノ年金ハ三十七ケ年間(初年七〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻最高六〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻最低四〇五、〇〇〇、〇〇〇麻)

291

昭和4年4月17日 在仏国安達大使より  
田中外務大臣宛(電報)

賠償金分配率に関する我が方意向表明について

パリ 4月17日前着  
本 省 4月18日前着

第一一二号

森委員ヨリ

賠專第一一號

本委員会ハ債務国ヲ包含スルヲ以テ債権国間ノ分配ニ関シテハ正式會議ニ於テ論議スルヲ避ケ居ルハ勿論ナルモ分配率ニ関スル本邦政府ノ態度ハ會議外ニ於テ機會アル毎ニ是カ声明ニ努メ居タル次第ナルカ今ヤ独逸年金額算出ノ改訂ニ入りタル処大勢ハ年金更生ノ立案上債権国ノ対外支払所要額ト其ノ他ノ賠償額トヲ區別シテ年金額ヲ按排セントスルノ方針ニ進ミ四債権国案及委員長案共ニ右各国対外支払所要額ヲ独逸年金ノ主タル部分トスル關係上動モスレハ「スパー」率ニ変更ヲ来ス結果ヲ生スヘキニ付賠專第一〇号三所報小分配率国ノ地位ニ関スル債権国委員会当初ノ会合(四月十五日)ヲ機會トシテ劈頭第一ニ本員ハ本件ニ関スル所見ヲ声明セリ即チ先ツ本委員会参加ニ際シ帝國政府ノナセル声明ヲ朗読シ本員ハ専門家ニシテ政府ノ訓令ヲ受ケ居ラサルモ帝國政府カ右声明ヲナセル事實ヲ通知シ諸員ノ考慮ヲ求ムルノ義務アルヲ述ヘ各国分配率殊ニ小分配率国ノ「スパー」率ニ変更ヲ加フルカ如キハ會議ヲ成功ニ導ク所以ニアラサル旨ヲ述ヘタルニ英國委員「スタンブ」亦算術的変更ヲ加フルハ差支ナキモ實質的変更アラハ英國政府ハ反対ナルヘキヲ述ヘ座長「モロー」ハ本員ノ通告ニ対

シ感謝シ本会ハ此ノ通告ヲ考慮ニ入ルヘキコトヲ声明セリ  
英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

292 昭和4年4月(18)日 在仏国安達大使より  
田中外交大臣宛(電報)

### 英仏伊白四国およびヤング委員長の両賠償年金案に対する独逸態度について

本 省 4月18日前着

第一一三号

森委員ヨリ

賠專第一二号

四月十六日(第二十九回及第三十回)会合

一、既報ノ如ク委員長ヨリ年金案ノ提出アリタルモ之ニ対シ独逸側ハ何等意見ヲ述ヘス

二、四国年金案ニ対シテ独逸委員ハ「ドーズ」案ノ方独逸ニトリ遙ニ有利ナル旨ヲ述ヘ本案ハ到底受諾スルヲ得スト為シ諸員ヨリ独逸側ノ対案提出ヲ促セルニ拘ラス之ニ応セス會議停頓ノ状ヲ呈シタルヲ以テ本員ヨリ独逸委員

ニ會議進行ノ為対案ノ提出方ヲ説キタルニ「シャハト」

ハ始メテ独逸支払能力ノ最大限度トシテ三十七年間年金平均十六億五千万馬克(無条件 transfer 四億五千万馬克条件付九億馬克実物引渡三億馬克)ヲ声明シタルカ(尤モ此ノ対案ニハ或ル条件ヲ付シ居レリ)之ニ対シ諸国委員孰レモ頗ル失望ノ色アリ独逸側ヨリ十七日其ノ詳細ヲ提出スル筈

英、米、独、伊、白ヘ暗送セリ

293 昭和4年4月(19)日 在仏国安達大使より  
田中外交大臣宛(電報)

### 独逸よりの賠償年金案提出について

付 記 昭和四年四月一九日着在パリ森委員より三士

大藏大臣宛電報森第四四号

独逸の賠償年金案要旨

本 省 4月19日前着

第一一六号

森委員ヨリ

賠專第一四号

十七日午後会合

独逸委員ヨリ甲、乙両案ヨリ成レル年金案ノ提出アリ何レモ年数三十七年年金十六億五千万馬克ニシテ甲案ハ其ノ年金ノ一部ニ無条件 Transfer ヲ認メ乙案ニ比シ有利ナル点アルモ一方領域ノ整理、生産原料品ノ確保、世界通商ノ自由等政治的要素ヲ含メル事項ヲ委員會報告中ニ挿入スルコトヲ条件トス乙案ハ甲案ヲ採用セラレサル場合ノ対案ニシテ右ノ如キ政治的条件ナキモ年金額中無条件「トランスファアー」ヲ認メサルモノトス(其ノ案内容ニ付テハ森第四四号参照)

右独逸案ニ対シ四債権国委員ハ何レモ年金額ノ少額ナルコトニ対シ不満ノ意ヲ表シ尚甲案ノ如キハ本委員会研究ノ範圍ヲ脱シ政治上ノ要素ヲ含ムモノトシテ強ク反対シ到底討議ノ基礎トナシ得サルヲ述ヘタルカ本員及「ラモント」ノ提議ニ基キ両案ノ研究ヲ継続スルコトナレリ委員長ハ四国案ハ五十九年間又独逸案ハ三十七年間ノ年金額ヲ示セル処当初十五年間ノ支払能力ハ實際の見地ヨリ測定シ得ヘク之ヲ超越シタル期間ニ付テハ最早經濟上ノ問題ニアラス寧

ロ政治的又ハ「スペキュラチブ」ノ問題ナルヲ以テ實際的解決ヲ得ントセハ先ツ当初十五年間ノ年金ニ付一致点ヲ発見シ得ヘキヲ研究スルコト妥当ノ策ト謂フヘク此ノ期間ノ年金ヲ決定シ得ハ其ノ後ノ年金ニ付テハ解決自ラ容易ナルヘキヲ以テ当初十数年間ノ年金ニ付少数ノ委員間ニ協議セシメタシト述ヘ「レベリストーク」ノ主宰スル少数相談会（委員長モ参加）ニ於テ研究スルコトニ決定セリ尚前記甲案ニ示ス条件ニ対シ委員会トシテ考慮スヘキ程度ニ付テハ仏国委員「モロー」ト委員長トノ協議ニ委スルコトナレリ

英、米、独、伊、白へ暗送セリ

（付記）

パリ 発

大蔵省 4月19日着

森第四十四号

独逸側提出年金案要項左ノ通

第一、年数ヲ三十七年ニ限定年金金額ヲ毎年一、六五〇、〇〇〇、〇〇〇麻ニ一定シ其ノ支払方法ニ付甲乙二案（内

容後掲第二及第三参照）ヲ提議ス独逸委員ハ委員会報告中ニ独逸支払能力増進ノ手段方法ヲ概説スルコトトシ即左記諸項ヲ挿入スル事ヲ条件トシテ甲案ヲ受諾

（一）植民地ノ喪失ニ伴フ生産原料ヲ他国ニ仰クノ結果国際貸借逆調ヲ生ス依リテ新賠償計画ノ実施ニハ自国植民地生産原料ニ依リ自給経済ノ回復ヲ必要トスル事

（二）食料品輸入抑制ニ資スル為東部地方ノ国境ニ対シ適当ノ措置ヲ講スル事（註 Danzig Corridor 問題）

（三）輸出増進ニ関連セシ（委員会トシテハ各国現行通商関係ヲ批評スヘキモノニアラサルモ）独逸ノ輸出ニ対スル障碍ヲ講究シ独逸商品ヲ外国市場ニ自由ニ売捌カシメサレハ賠償支払ヲ期待シ得サルコト

右事項挿入セラレサル場合現状ノ下ニ於テハ独逸ハ乙案ヲ受諾スルノ外ナシ

第二、（甲案）支払金額ヲ四種ニ分類シ

（A）無条件外貨払ヲ四五〇、〇〇〇、〇〇〇麻ニ一定

（B）条件付外貨払（二年間 Transfer 猶予ス猶予期間中ハ麻ヲ払込）ヲ初年二二五、〇〇〇、〇〇〇麻トシ其後年々二五、〇〇〇、〇〇〇麻乃至一〇〇、〇〇〇、〇〇〇

〇〇麻増加十一箇年目二六〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻トナリ爾後同額継続

（C）条件付外貨払ニシテ同時ニ Transfer 猶予期間中即二年間麻払込ノ猶予付金額（B）ニ同シ

（D）実物引渡初年七五〇、五〇〇、〇〇〇麻其後年々五〇、〇〇〇、〇〇〇麻乃至二〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻ヲ減シ十年目ノ二〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻ヲ以テ打切ル

（乙案）

支払金額ヲ三種ニ分類ス甲案ニ比シ主ナル差異ハ無条件外貨払ヲ全然認メサルコト及外貨払猶予期間ヲ二年ニ限定セサルコトニ在リ

（イ）条件付外貨払ヲ初年四五〇、〇〇〇、〇〇〇麻トシ其後二五、〇〇〇、〇〇〇麻乃至一〇〇、〇〇〇、〇〇〇麻増加シ十一年目二八二五、〇〇〇、〇〇〇麻トナリ爾後同額継続

（ロ）条件付外貨払並ニ麻払込猶予付其金額（イ）ニ同シ

（ハ）実物引渡其金額甲案（D）ニ同シ

第三、甲乙両案共ニ

（一）年金期間終了後ニ於ケル残存連合国間債務支払ノ為ニ

ハ新銀行ノ利益及債権国中独逸ニ対シ有スル債務額ヲ充当スル事

（二）年金期間中ニ連合国間債務ノ減額アリタル場合ハ独逸ノ支払フヘキ年金ヲ同額減少スルコト

294 昭和4年4月24日 在仏国安達大使より  
田中外交大臣宛（電報）

現在までの協議結果に関する報告書作成問題について

パリ 発  
本省 4月24日前着

第一二六号  
森委員ヨリ  
賠專第一七号

二十三日午後第三十三回会合

年金問題協議ノ結果ニ付相談会ハ終ニ一致ノ意見ヲ見ル能ハサリシ旨（賠專第一六号一参照）報告アリタル後議長ハ既ニ本委員会ノ報告書ヲ作成スヘキ時期ニ到達セルモノト認メラルル処先ツ各国首席委員ヲ以テ小委員会ヲ作り今日

迄協議シタル諸事項ニ付一致セルモノト然ラサルモノトノ  
outlineヲ定ムヘク其ノ上必要ニ応シ起草委員ヲ設クルコ  
トトシタキ旨ノ提議アリ之ニ決定  
右ニ関シ左ノ点御参考迄

賠專第一六号所報ノ通十八日ノ相談会ハ年金問題ニ関シ一  
致スル能ハサリシ為会議ハ直ニ決裂ノ外ナシト予期セラレ  
タル処「レベルストーク」急死ニ依リ三日間ノ休会トナリ  
此ノ間ニ更ニ非公式内談ヲ進メ尚「シヤハト」ハ報告旁伯  
林ニ赴キ二十二日帰巴シタルカ年金問題ニ関シテハ依然一  
致ヲ見ルコト困難ナル現状ナリ而シテ前記ノ手続ニ依リ会  
議ノ成果ヲ報告書ニ取纏メ円満ニ終了セシムルコトトシ之  
ト同時ニ報告書案協議中債権国側及独逸側双方接近ノ機会  
ヲ作り年金問題解決ノ期待ヲ繋キ置クコトトセリ  
英、米、独、伊、白へ暗送セリ

295 昭和4年4月25日 在仏国安達大使より  
田中外務大臣宛(電報)

報告書案に記載すべき事項に関する協議結果  
について

旨述ヘタリ  
英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

296 昭和4年5月(2)日 在仏国河合臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

年金問題の現状および報告書案に記載すべき  
主要事項について

パ リ 発  
本 省 5月2日前着

第一三二号  
森委員ヨリ

賠專第一九号

一、四月二十九日主席委員会合「スタンプ」報告案ニ付実  
質内容ニ関スル協議一応終了シタルカ諸委員ハ年金問題  
ニ付一致ノ成案ヲ得サル場合ニ於テモ賠償支払組織特ニ  
国際銀行設立具体案ニ付全員一致ノ報告書作成ノ意向ヲ  
有シ之ニ努力シツツアルヲ以テ報告書完成迄ニハ尚相当  
ノ時日ヲ要スヘシ

二、年金問題ハ五月二日「シヤハト」帰巴ノ上更ニ委員長

第一二七号  
森委員ヨリ

賠專第一八号  
賠專第一七号所報首席委員会「ヤング」ヲ座長トス  
二十三日開会

「スタンプ」作成ノ報告書案ニ付協議セル処「シヤハト」  
ハ其ノ内外ニ及ホス影響ヲ考慮スル時ハ各員ノ一致セル事  
項ノミヲ取纏メ報告書ヲ作成スルヲ可トスル旨述ヘタルニ  
対シ「モロー」及「フランキー」ハ斯ノ如キハ事実ヲ不明  
瞭ナラシメ誤解ヲ招ク虞アルヲ以テ「スタンプ」案ニ依リ  
委員会ノ協議セル事項ヲ総テ取纏メ独逸委員ノ賛成シ得サ  
ル点ハ其ノ旨記載スヘシト主張シ容易ニ一致セサリシ処本  
員ノ調停ニ基キ「スタンプ」案ニ依リ一応総テノ事項ヲ報  
告書ニ取纏ムルコトニ決定「スタンプ」ニ之ヲ委嘱シ金曜  
日迄休会スルコトトセリ  
猶「ヤング」ハ右報告書案起草中更ニ独逸委員ト協議ヲ重  
ネ年金問題ニ付何等カ一致点ヲ発見シ得サルヤヲ試ムヘキ

ヨリ最後ノ商議ヲ試ミル予定ニシテ愈本問題解決ヲ断念  
スルヤ否ヤハ右商議ニ依リ判明スル見込ナルカ独逸側ハ  
一面会議不成功ニ基ク経済上ノ悪影響ニ付頗ル懸念シ居  
リ年金未決ノ儘散会スル事ヲ避ケ度キモ他面内政上ノ見  
地ヨリ年金ヲ債権国ヲ満足セシムヘキ程度ニ増加方受諾  
シ難ク旁進退兩難ノ現状ニアル次第ナリ

三、報告書案ハ十二ノ項目ヨリ成レル処其ノ重ナルモノ左  
ノ通

独逸経済状態ノ研究  
独逸ノ支払能力  
国際決済銀行  
年金ノ態様ト金額トノ関係  
年金案

証券化及売出並ニ本案ト「ドーズ」案トノ比較  
英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

297 昭和4年5月(7)日 在仏国河合臨時代理大使より  
田中外務大臣宛(電報)

賠償年金に関するヤング委員長調停案の独国

パ リ 発  
本 省 4月25日前着

受諾について

別電

昭和四年五月七日着在仏国河合臨時代理大使より田中外務大臣宛第一三八号

独国のヤング委員長調停案受諾理由について

付記

昭和四年五月五日着在パリ森委員より三士大蔵大臣宛電報森第四六号

独国のヤング委員長調停案受諾経緯

パリ 5月7日前着

第一三七号

森委員ヨリ

賠專第二一号

森第四六号末段ノ会合五月四日午後開催

一、委員長ハ先ツ独逸委員ト内交渉ノ顛末ヲ報告シ自己ノ提示セル新係数年金二十億五千六十万麻克ニ対シ独逸委員ハ大体左記三事項ヲ付帶シ之ヲ受諾スヘキ旨本日正式ニ言明シタルニ付テハ此ノ際債権国側ニ於テ之カ諾否ヲ決セラレ度尚大体ノ意向ヲ承リタシト述フ

(イ)将来全ク予期セサル事態ヲ生シタル場合ニ於テハ条件

ル上考究ヲ重ネ其ノ意向ヲ表示スヘキ旨ヲ述ヘ結局六日迄ニ詳細ノ係数及右条件ヲ書面ニテ提示シ七日更ニ債権国側ノ協議ヲ継続スルコトナレリ

英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

(別電)

パリ 5月7日前着

第一三八号

森委員ヨリ

賠專第二二号

一、「シヤハト」カ委員長ノ新係数ヲ受諾シタルハ独逸側非常ノ奮発ト云フヘク畢竟過日来ノ議行詰ノ情報ニ依レハ独逸経済ノ打撃等ニモ徴シ独逸カ會議分裂ニ依リテ受クヘキ影響重大ナルヘキヲ痛切ニ感得シ且外交上ノ理由ニモ基キ何等カノ解決案ヲ得ントスル意向ニ傾キタルニ外ナラサル処債権国側トシテモ會議決裂ハ結局ニ於テ不利ナルノミナラス四国案係数トノ開今ヤ比較的小額トナリ形勢急転ヲ見ルニ至リタル次第ナルカ只仏、白側ハ四

付ノ部分ヲ保護スルノ条項ヲ挿入スルコト

(ロ)「ドーズ」案ニ依ル自主ノ外国管理(ライヒスバンク)、興業債券、鉄道債券ニ対スルモノ等)ヲ撤廃スルコト  
(イ)新年金ハ「ドーズ」案年金ト同様 All treaty payment ヲ包含スルモノトスルコト

二、右ニ対シ別電賠專第二二号ノ事由ニ依リ先ツ本員ヨリ委員長ノ献身的努力及難関ヲ打開シ得ルコトヲ感謝シ新係数ハ一面独逸ノ支払能力ヲ考慮スルト共ニ他面債権国團ノ所要額ヲ考慮シタルモノニシテ債権国側ヨリスレハ多大ノ犠牲ヲ払フコトナルヘキモ之ニ依リ最終確定的ノ解決ヲ齎スノミナラス独逸国民ノ誠実及支払意思ヲ確保シ得ヘキ旨ヲ説キ専門家ノ立場ヨリ見テ右係数ハ合理的ト認メラルルコト及本會議不成功ノ影響ニ言及シタル後最終解決ノ望アル而モ適當ナル新係数ヲ債権国側ニ於テ承認セス會議ヲ決裂セシムル場合ノ責任ニ論及シ諸員ノ考慮ヲ促シタリ

三、次テ「スタンブ」及「ピレリ」新係数受諾ヲ表明シ仏白委員ハ委員長ノ勞ヲ謝シ新係数ニ付テハ新年金案計算ノ基礎及独逸側カ其ノ受諾条件ヲ具体的ニ提示セラレタ

国案支持ノ態度ヲ取り直ニ賛意ヲ表スルニ至ラス從テ今ヤ米、英、伊三国側委員ト独逸委員ト協議シ仏、白ヲ説得スルノ地位トナレリ

二、本員ハ此ノ間ニ処シ四国案ノ到底実現シ得ヘカラサルト會議成否ノ齎ス影響ノ重大ナルトニ鑑ミ新係数ヲ以テ諸国委員ノ一致ヲ計ル事ハ必要ナリト認メ之ニ賛成スルニ決セリ

三、因ニ四国債権国会議ニ於ケル協議ノ段取ニ付会合前打合アリタルカ米国側ハ寧ロ提議者ノ立場ニ在リ又英、伊ハ共ニ四国案ノ提出者タル關係上仏、白トノ關係ヲ顧慮シ真先ニ新案賛成ノ発言方適當ニ非ス旁委員長ノ提議ニ對シ先ツ本員ヨリ発言スル事ニ内定シタル次第ナリ

英、米、独、白、伊ニ暗送セリ

(付記)

パリ 5月5日着

森第四十六号

一、外務大臣宛賠專第一九号ニ所報ノ如ク Hjalmar

Schacht 五月二日帰巴シタルニ付年金問題ニ付最後ノ商議ニ入り委員長ト Hjalmar Schacht ト非公式ニ会見セル処 Hjalmar Schacht ノ態度著ク妥協のトナリ委員長ハ曩ニ提示セル其ノ年金案(平均二、一〇五、〇〇〇、〇〇〇麻)ニ多少改訂ヲ加ヘ平均年金二、〇五〇、六〇〇、〇〇〇麻ノ係数ヲ内示シ受諾方慫慂セル処 Hjalmar Schacht ハ一定ノ条項ヲ付スルノ留保ヲ以テ若シ債権国側ニ於テ此ノ係数ヲ承諾スルニ於テハ受諾スヘシト言明セリ茲ニ於テ年金問題ノ局面頓ニ好転依リテ委員長ハ昨日米債権国側ノ諒解ヲ求ムルニ尽力中ナル処英国委員ハ受諾シ伊国委員亦強ヒテ反対セサルカ仏白委員ノ態度強硬(E. Moreau ハ目下旅行中ナルヲ以テ同氏巴里帰着迄仏国側態度ノ決定ヲ見ルコト困難ナルヘシ) 本邦側トシテモ此ノ際年金問題ノ解決ニ協力スルコト大局上必要ト認メ英米両国ト同様ノ態度ヲ採ルノ意向ナリ

二、本件ニ就テ本日午後委員長及債権国委員ノ会合ヲ催シ意見交換ノ筈

馬克「ドーズ」公債ノ元利払ヲ加算スレハ平均年金二十億五千万馬克

三十八年目ヨリ五十六年目迄ハ十五億一千一百九十万馬克乃至十六億二千八百六十万馬克ニシテ五十九年目ノ八億四千六百万馬克ヲ以テ終ル

二、当初二十七年間ノ年金ヲ postponable 及 nonpostponable 支払ニ分チ後者ハ初年ヨリ三年目迄七億五千万馬克其ノ後毎年二千五百万馬克宛増加シ十三年目以後ハ十億馬克トス

三、右 postponable ノ部分中最初十年間ハ実物引渡ニ依ル支払ヲ認ム(初年七億五千万馬克毎年五千万馬克宛通減)

四、右年金中ニハ白耳義ノ麻克決済ヲ包含セス

第二、新年金案ハ委員長ノ旧年金案(森第四三三号)ニ比シテ年平均五千万馬克減額トナリ居ル処各国分配率金額ニ付米国側腹案トシテ内示シタル処ニ依レハ本邦分ハ〇・七五四「パーセント」毎年平均千五百万馬克(全部 nonpostponable 支払)ニシテ何レモ却テ日本ニ有利トナリ居レリ

298

昭和4年5月(8)日

在仏国安達大使より  
田中外務大臣宛(電報)

委員長調停により独国が受諾した賠償年金案について

パ リ 本 省 5月8日前着 発

第一四〇号

森委員ヨリ

賠專第二三三三

第一、賠專第二二一三三所報ノ如ク委員長ハ五月六日各国委員ニ対シテ独逸側カ或ル種ノ条件付ニテ受諾シタル新年金案ヲ説明セル覚書ヲ提示セリ

新年金案要点左ノ通

一、年金ハ「ドーズ」公債ノ元利払ヲ別勘定トシテ除外シ初年十六億七千万馬克ヨリ毎年二千五百万馬克増加シ十八年目二十一億馬克トナリ十九年目及二十年目ハ毎年五千万馬克ヲ増加シ二十一年目ヨリ三十七年目迄ハ毎年二十三億六千万馬克(年金最高額)トス(当初三十七年間平均年金十九億八千八百八十万

英、米、伊、白、独ニ暗送セリ

299

昭和4年5月(11)日

在仏国安達大使より  
田中外務大臣宛(電報)

委員長賠償年金案における各国分配率および年金額について

パ リ 本 省 5月11日後着 発

第一四二二

森委員ヨリ

賠專第二四四

第一、賠專第二二三三三所報委員長提案新係数(当初三十七年間平均年金十九億八千八百八十万馬克)ノ各国分配率ヲ説明セル追加覚書ノ提出ヲ見タル処右新分配率及年額左ノ通(括弧内ハ nonpostponable 支払ニ充当スル見込額)

(一)仏国五四・〇一七「パーセント」十億七千四百三十万馬克(五億馬克)

(二)白耳義麻克精算ヲ除外セル為五・五四六「パーセント」一億一千三十万馬克ニ減額(五千五百万馬克)

(三) 英国自治領ニ対スル分ヲ除外セル為一九・四五九「パーセント」三億八千七百万麻克ニ減額(ナシ)  
 (四) 伊国一・二三三「パーセント」二億二千三百四十万麻克(ナシ)

(五) 米国三・四七四「パーセント」六千九百四十万麻克(四千五百万麻克)

(六) 塞耳比三・二三八「パーセント」六千四百四十万麻克(一千五百万麻克)

(七) 日本(賠專第二三三號所報)ノ通〇・七五四「パーセント」一千五百万麻克(全額)

(八) 希臘〇・四五三「パーセント」九百万麻克(全額)

(九) 葡萄牙〇・七三四「パーセント」一千四百六十万麻克(九百六十万麻克)

(十) 羅馬尼亞〇・九一「パーセント」二千一百七十一麻克(一千九百七十麻克)

第二、右ニ対シ英国側ハ年金総額其ノモノニハ賛成ナルモ分配率ノ變更ハ英国ニ負担重ク自治領ニ分前ヲ削除セラレ居ルニ対シ絶対反対ノ意向ヲ示シ元來本委員会ニハ厳正ナル意味ニ於テハ分配率變更ハ付記事項中ニ含マレ居ラス然

シ左ノ分配率ハ「スバー」率ノ基礎ト異ナリ米國分ヲモ包含シテノ分配率又括弧内ハ「ドーズ」標準年金ニ依ル分配額ニ対スル減率ナリ

(一) 仏國十億三千三百十萬麻克五・一九五%(一九・二%)

(二) 白耳義一億六百万麻克五・三三三%(一七・八%)

(三) 英國四億四千六百万麻克二・四三三%(二二・七%)

(四) 伊國二億一千四百八十萬麻克一〇・八%(一・九%)

(五) 米國六千六百四十萬麻克三・三四%(一七・七%)

(六) 塞耳比六千四百四十萬麻克三・二四%(四〇・九%)

(七) 日本一千四百四十萬麻克〇・七二%(一〇・〇%)

(八) 希臘八千七百七十萬麻克〇・四四%(三・三%)

(九) 葡萄牙一千四百萬麻克〇・七%(一二・五%)

(十) 羅馬尼亞二千九十万麻克一・〇五%(一六・四%)

英、独、伊、白、米ニ暗送セリ

~~~~~

300 昭和4年5月18日

在仏國安達大使より
 田中外務大臣宛(電報)

独國の委員長賠償年金案受諾条件について

パ

リ

発

レトモ若シ解決ノ成功上變更ヲ必要トスルニ於テハ英國ニ対シ自治領ニ対スル分トシテ五千九百万麻克ヲ供与スルヲ必要トシ此ノ結果ヲ生セシムル為其ノ公平ト認ムル分配方法ノ腹案ヲ内示セリ

第三、右英國側主張ノ根拠トスル処ハ左ノ如シ

即チ委員長新係数ハ「ドーズ」標準年金ニ比シ総額ニ於テ一八・五%ノ減率ナルニ其ノ諸國間分配ニ当リ用ヒタル減率ハ

仏國一五・九%

米國一三・六%

白耳義一四・五%

日本六・二%

葡萄牙八・七%

羅馬尼亞一三・二%

ニシテ何レモ(伊國二%増)一八・五%以下ノ減率トナリ居ルニ拘ラス独リ英帝國及塞耳比ハ夫々三〇・五%及四〇・九%ノ減率ヲ用ヒタル事偏重不当ナリトシ依テ総額減少ノ結果ヲ諸國間ニ於テ成ルヘク公平ニ負担セシメムカ為ニハ左ノ如キ分配法ヲ採用セン事ヲ提議セントスルモノナリ但

本 省 5月18日前着

第一五四号

森委員ヨリ

賠專第二六号

賠專第二五号所報委員長新年金案(賠專第二三三號第一参照)受諾ニ対スル独逸側条件ヲ編入セル報告書案及独逸側受諾書ノ配布アリタル処其ノ重ナル条件左ノ通

一、無条件年金ハ「ドーズ」外債元利払ノ外五億馬克及米

國ノ mixed claim 並ニ同國ノ占領軍費用ノ合計ニ限ル

且「ドーズ」外債元利払以外ハ三十七年間同額タル事

二、最後ノ二十二年間ノ年金ハ旧奧洪國(奧太利)ノ繼承

國ニ対シ賠償委員會ノ有スル債權ヲ以テ相殺スヘク且新

銀行ノ利益ノ一部ヲ之ニ充當スルコト

三、条件付年金ハ全額ニ付外債払ノ猶予ヲ認ムルノミナラ

ス其ノ半額ニ付二年ヲ越エサル支払猶予ヲ認ムルコト

四、独逸鐵道会社ハ独立ノ私設会社トシテ何等制限ヲ受ケサルモノトスルコト

五、鐵道債權ヲ存続セシムヘキヤ否ヤハ更ニ協議スヘキ事
 六、新銀行ノ資本トシテ年金ノ外ニ独逸ヨリ出資スヘシト

ノ条項ヲ報告書案ヨリ削除スルコト
七、独逸委員ハ独逸個人財産ノ精算ニ関スル適當ナル条項ノ討議ヲナスノ自由ヲ留保スルコト
英、独、白、伊、米ニ暗送セリ

301 昭和4年5月24日 在仏国安達大使より
田中外務大臣宛(電報)

債権国側の委員長賠償年金案受諾条件に関する対独覚書について

パ リ 発
本 省 5月24日後着

第一六三号
森委員ヨリ

賠專第三一號

第一、債権国側委員ハ五月二十一日独逸側受諾条件中未決ノ点(賠專第三〇号)ヲ議シ二十一日独逸委員左記要旨ノ覚書及委員長年金案受諾ニ対スル債権国側条件ヲモ記載セル報告書案(c案)ヲ手交セリ

一、債権国諸員ハ委員長新年年金案受諾ニ対スル独逸側ノ条

十萬馬克ニ達ス

(ロ)其ノ他初年四億二千萬馬克第二年以後七億六千三百六十萬馬克

三、前記係数受諾ニ対スル債権国側条件ハ賠專第二九号及第三〇号所報ノ外主ナルモノ左ノ如シ

(イ)無条件年金ハ(「ドーズ」公債元利払ヲ含ミ)最初五年間ハ毎年六千萬馬克其ノ後二年毎二千五百萬馬克宛遞増シ二十九年目ニ至リ最高九億六千萬馬克ニ達セシメルコト

(ロ)独逸個人財産ノ精算ニ関スル件(賠專第二六号ノ七)及其ノ他ノ小問題並ニ字句ノ修正ハ今後ノ討議ニ讓ルコト

(ハ)左記諸点ハ今後ノ討議ニ讓ルコト

(a)前記年金ノ外ニ新銀行ノ資本トシテ独逸ヨリ馬克年金ヲ払ヒ込ムヘキ件(賠專第二九号)

(b)新銀行ノ利害分配殊ニ三十七年後ノ二十二年間ノ年金トノ関係ニ関スル独逸ノ要求(賠專第二九号)

(c)係争中ノ債権国ニ対スル独逸ノ要求(賠專第二九号)
(d)「トランスファア」猶予中ノ馬克ニ対スル支払額ノ

件ヲ編入セル報告書案(b案)並ニ独逸側受諾書(賠專第二六号)及委員長新年年金案(賠專第二三号)ノ趣旨ニ從ヒ後掲条件ノ下ニ左記係数ヲ受諾スルノ用意アリ

(イ)一九二九年四月一日以降三十七年間後掲年金表ニ依リ平均年金十九億八千八百八十萬馬克(内戦債関係對外支払純所要額充當分十二億四千六百萬馬克其ノ他七億四千二百八十萬馬克)

(ロ)「ドーズ」公債元利払ヒ所要額

(ハ)白耳義馬克精算額三十七年間毎年二千五百萬馬克(以上)(ロ)(ハ)合計三十七年間平均年金二十億七千五百六十萬馬克)

(ニ)三十七年後ノ二十二年間ハ債権国ノ戦債関係對外支払純所要額ニ相当スル金額

二、年金表要点左ノ如シ

第一年四億二千萬馬克第二年目十七億二千八百七十萬馬克三十七年目(最高)二十三億三千七百二十萬馬克右ノ内(イ)戦債関係對外支払純所要額

第一年ハ賄済ミニ付不要第二年目ノ九億六千五百十萬馬克ヨリ初マリ三十七年目ニ(最高)十五億七千三百二

利用

(e)「トランスファア・タックス」(賠專第三〇号四(ロ)第二、前記二ノ外報告書c案中ニ挿入セル条件中主ナルモノ左ノ如シ

(イ)新年金ノ決定ハ賠償債務ニ対スル独逸、奧太利、洪牙利、勃牙利ノ連帶責任ヲ解除スルコトトナルヘキコト(賠專第二九号参照)

(ロ)債権国政府ハ新計画ノ第一年中ニ旧奧太利、洪牙利國ノ繼承國ニ対スル賠償委員會ノ債権ヲ処理シ本専門委員會ノ事業ヲ完成スヘキコトヲ「レコメンド」スルコト(賠專第三〇号参照)

英、米、独、伊、白ニ暗送セリ

302 昭和4年5月28日 在仏国安達大使より
田中外務大臣宛(電報)

債権国側覚書に対する独国態度について

パ リ 発
本 省 5月28日前着

第一六七号

森委員ヨリ

賠專第三号

一、賠專第三号所報五月二十二日債権国側書交付ノ結果一方独逸委員ハ委員長ト協議ヲ重ヌルト同時ニ債権国側ハ「アデイス」「ピレリ」及仏白副委員ヲシテ非公式ニ独逸委員ノ真意ヲ探ラシメタルカ「シヤハト」ノ決裂ヲ好マサル真意ナルカ如キモ賠專第三号所報ノ事情等モアリ年金額増加及馬克清算ノ交渉ニ反対ナルノミナラス留保条件ニ付テモ
イ、新銀行ノ資本ニ特別年金ヲ払込ムコトヲ認メサルコト

ロ、支払ノ猶予

ハ、鉄道債券ノ廃止

ニ、三十七年後ノ二十二年間ノ支払ニ繼承国ノ債務ヲ充当スルコト

等ノ要求ヲ固持シテ譲歩セス

二、茲ニ於テ委員長ハ到底一致ハ困難ナルヲ認ムルト共ニ最早即決ヲ希望シテ六月一日渡米ヲ声明シ報告書ノ形式ニ付英国委員及本員ト特ニ内協議ヲ為スニ至リタルモ其

其ノ後委員会ハ更ニ局面打開ニ努力セル結果二十八日仏独米ノ係数専門家共同ニテ年金案ヲ作成シタル後特ニ仏国側ノ主張ヲ考慮シ二十九日大体左ノ如ク決定セリ

(イ)独逸ハ一九二九年九月一日以降一九六六年三月三十一日迄ノ間ニ平均(「ドーズ」公債元利払ハ別トシ)十九億八千八百八十萬馬克ノ三十七ヶ年ノ年金ニ相当スル金額ヲ支払フヘキモノトス但シ独逸ノ財政年度ニ適合セシムル為第一年ハ一九二九年九月一日乃至一九三〇年三月三十一日トシ其ノ後ノ三十六年ハ毎年四月一日乃至翌年三月三十一日迄トス

(ロ)年金額ハ第一年七億四千二百八十六萬馬克第二年十七億七百八十萬馬克其ノ後漸増三十七年目(最高)二十四億二千七百五十萬馬克トス(蓋シ第一年ノ年金ハ後掲(ニ)ノ如ク債権国ノ対外支払純所要額ヲ「ドーズ」案ニ依ル支払ニテ賄フヘキ七億四千二百八十萬馬克トシ平均年金十九億八千八百八十萬馬克トノ差額ヲ後三十六年間ニ支払ハシムル計算ナリ)

(ハ)「ドーズ」案廃止及本案実施ノ期日ハ政府間ニ於テ定ムヘシ但シ本案ハ実施期ヲ本年九月一日トシテ計算セルモ

ノ後ノ情報ニ照シ更ニ一応独逸委員ノ再考ヲ促シ目下交渉中ナリ

三、二十六日午前債権国側合英仏委員ヨリ「シヤハト」ト会谈ノ顛末ヲ報告シ其ノ印象トシテ述フル処ニ依レハ独逸委員ハ新計画ヲ九月一日ヨリ実施スルコトハ承認セルモ年金額ノ増加及留保条件等ニ付テハ譲歩ヲ肯セス到底一致ヲ見ルコト困難ナルカ如キモ兎ニ角前掲委員ノ交渉ノ結果ヲ俟ツコトトセリ

英、米、独、伊、白へ暗送セリ

303

昭和4年5月31日 在仏国安達大使より
田中外務大臣宛(電報)

独仏米専門家による新賠償年金案の確定について

パリ 発
本省 5月31日前着

第一七〇号

森委員ヨリ

賠專第三号

ノニシテ期日ニ関スル政府間ノ決定如何ニ拘ラス本年八月三十一日迄ハ「ドーズ」案ニ依ル支払ヲ継続シ九月一日以降ハ本案ノ計算ヲ基礎トシテ支払ヲ為スコトトスヘキモノトス

(ニ)前後四月乃至八月ノ「ドーズ」案ニ依ル支払ハ一九二九年乃至三〇年ノ債権国対外支払純所要額其ノ他「ドーズ」案ヨリ本案ニ移ル過渡期ニ於ケル債権国ノ所要ニ充当セラルヘク若シ剰余アラハ之カ処分其ノ他過渡期ニ於ケル経費等ノ総テノ問題ハ政府間ニ於テ決定スヘシ

(ホ)三十七年後ノ二十二年間ハ独逸ハ債権国ノ対外支払純所要額ヲ支払フモノトス

二、馬克清算問題ハ独白政府間ニ了解ナリ本委員会トハ別個ニ交渉ヲ開始スルコトナレリ

三、独逸側留保条件ニ付テハ前記年金額ニ付一致ヲ見タル以上ハ其ノ解決モ容易ナルヘキ見込

英、米、独、伊、白へ暗送セリ

304

昭和4年6月(4)日 在仏国栗山臨時代理大使より
田中外務大臣宛(電報)

新賠償年金案における支払留保条件の解決について

パリ 発 本省 6月4日前着

第一七四号

森委員ヨリ

賠專第三五号

一、賠專第三四号所報ノ如ク年金額ニ付一致ヲ見タル委員會ハ主力ヲ留保条件ノ解決ニ注キ面談ヲ進メタル結果全部之カ決定ヲ見タリ主ナル事項左ノ如シ

(イ)支払猶予ヲ許容スルハ transfer ヲ猶予シタル一年後且条件付年金ノ半額ニ限ルコト

(ロ)鉄道債券ヲ廃止シ鉄道会社ヨリ毎年優先的ニ六億六千万麻克(無条件年金額ニ相当)ノ直接税ヲ新銀行ニ払込マシムルコト

(ハ)無条件年金額ノ増加通増ニ関スル件及三十七年後ノ十二年間ノ支払ニ継承国ノ債務ヲ充当スル件ハ相関連セシメ何トカ解決ノ途ナキニ付努力セルモ独逸側ハ前者ヲ仏国側ハ後者ヲ承認セス双方固持シテ譲ラサル為

アルヲ以テ諸国ニ同率分配ノ結果本邦實際受領額ハ左ノ如シ

第一年乃至第四年千三百二十万馬克第五年乃至第八年千九百九十万馬克第九年乃至第十年千四百四十万馬克第十一年乃至第十二年千九百九十万馬克第十三年乃至二十年千三百二十万馬克第二十一年乃至第三十七年千五百二十万馬克

二、右ノ内実物引渡し割当額左ノ如シ(毎年実物引渡し総額ノ〇・七五「パーセント」ニ相当ス)

第一年五百六十万馬克第二年五百二十万馬克第三年四百九十万馬克第四年四百五十万馬克第五年四百四十万馬克第六年三百七十万馬克第七年三百四十万馬克第八年三百万馬克第九年二百六十万馬克第十年二百三十万馬克

英、米、独、伊、白ニ転送セリ

306

昭和4年6月7日

在仏国栗山臨時代理大使より
田中(外務大臣宛)(電報)

対独賠償専門委員会報告書の調印について

パリ 6月7日後発

前者ハ六億六千万麻克均一トシ後者ハ政府間ノ交渉ニ依リ新案実施後一年内ニ解決方建議スルコト

二、最終報告書案六月二日出来日英米独委員ハ直ニ調印シ得ル地位ニアルモ白仏委員(或ハ伊国委員モ)ハ麻克精算問題ノ解決ヲ見ル迄ハ従来ノ立場上調印困難ナル状態ニアリ委員長ハ同問題ノ解決ニ努力中

英、米、独、伊、白ニ転電セリ

305

昭和4年6月(6)日

在仏国栗山臨時代理大使より
田中(外務大臣宛)(電報)

新賠償年金案による我が方の受領額について

パリ 発 本省 6月6日前着

第一七九号

森委員ヨリ

賠專第三七号

一、最終報告書付属年金分配表案に依ル本邦人ノ分ハ三十七年間平均年金千三百二十万馬克ニ相当スルモノナルカ毎年年金中戦債関係純所要額以外ニ充当スヘキ分ニ効果

本省 6月8日前着

第一八三号

森委員ヨリ

賠專第三九号

予定通り六月七日調印ヲ了ス

英、米、独、伊、白、伊ニ転電セリ

307

昭和4年7月31日

幣原(外務大臣より)
在仏国安達大使宛(電報)

閣議における対独賠償専門委員会報告の主義

上承認について

付記一 昭和四年七月二七日付幣原外務大臣および井

上(準之助)大蔵大臣より濱口(雄幸)内閣総理

大臣宛条三機密第三五四号

対独賠償専門委員会報告書の閣議請議

二 対独賠償専門委員会報告書要旨

三 昭和四年六月七日付

対独賠償専門委員会委員復命書

四 対独賠償専門委員会成立前後経過

第一五三号

本省 7月31日後発

帝國政府ハ二十九日ノ閣議ニ於テ対独賠償専門委員会報告ヲ主義上承認シタリ

英、独、伊、白、蘭、米ニ転電アリ度シ

(付記一)

条三機密第三五四号

昭和四年七月二十七日

外務大臣男爵 幣原 喜重郎

大蔵大臣 井上 準之助

内閣総理大臣 濱口 雄幸殿

対独賠償専門委員会報告ノ件

対独賠償問題ノ完全且終局的解決ニ関スル提案作成ノ為メ日英仏伊白独ノ六国政府間ノ申合ニ基キ本年二月十一日以来巴里ニ会合セル対独賠償専門委員会ハ六月七日其事業ヲ終リ今般同委員会議長ヨリ帝國政府宛委員会報告書一部送付シ来リ又右委員会ニ出席セル帝國委員等ヨリモ復命書ノ提出アリタリ

側ノ支払ヲ確保シ居ル処新案ハ右ノ如キ監督機關ヲ一掃シ賠償債務ヲ純然タル普通債務トシ賠償年金ノ全部ニ付独逸ニ海外支払ノ全責任ヲ負担セシムルコトトス。

二、右ノ如ク賠償年金ハ今後全部海外支払ヲ行ハルヘキ処独逸ニ於テ右支払ヲ困難トスル場合ニ対スル調整方法トシテ新案ハ年金ヲ二分シ、一部ハ無条件国外送金ノ絶対義務アルモノトシ、(但其ノ一部ハ最初十ヶ年間実物弁済ヲ認ム)一部ハ送金困難ノ場合支払猶予ヲ認ムルコトトシタリ(猶予ヲ認メタル時ハ諮問委員会ヲシテ善後策ヲ講セシム)

三、新案ハ前述ノ如ク「ドーズ」案ニ依ル監督機關ニ代フルニ非政治的機關ヲ以テスルコトヲ主眼ノ一トシ委員会ハ右機關ニ該当スルモノトシテ全会一致ヲ以テ国際決済銀行ノ設置ヲ勧奨シタリ。右銀行ハ債權國ノ「トラスステイ」又ハ「エジエント」トシテ年金ノ取立分配其他一切ノ賠償事務ヲ統轄スルヲ主タル任務トシ、各国中央銀行ノ連絡ヲ計リ及世界通商ノ助成ヲ計ルヲ従タル任務トス。右銀行ノ公称資本金ハ一億弗相当金額ニシテ当初四分ノ一払込トス。株式ハ本委員会参加七ヶ国ニ合計五千

専門委員会ハ其ノ報告書所載ノ支払計画ヲ關係国ニ於テ採用セムコトヲ全会一致ヲ以テ勧告シタル処右計画ノ内容ヲ査閲スルニ右ハ「ドーズ」案ニ於ケル不確定ノ点ヲ明確ニスルト共ニ必要ナル改訂ヲ加ヘ大体ニ於テ委員会設置当初ノ目的ニ副フモノト認メラルルノミナラス同計画ノ結果我方取得分ニモ大ナル減少ヲ来サス本邦ノ權利ハ保全セラレタルモノト認メラルルニ付帝國政府ニ於テモ本件報告書ヲ主義上承認シ關係国ト協力シテ其実施ヲ計ルコトト致度別紙甲号^(別紙)対独賠償専門委員会報告書乙号同要綱丙号森委員等復命書丁号対独賠償専門委員会成立前後経過相添ヘ此段及請議候也

編注 本件別紙甲号は省略。乙、丙、丁の各号は本文書付記

二、三、四のとおり。

(付記二)

対独賠償専門委員会報告要綱

一、「ドーズ」案ハ独逸ノ支払総額ヲ定メス其ノ支払義務ノ如キモ単ニ其ノ国内通貨ニ依ル支払ニ限局シ海外支払義務ヲ負担セシムルコトナク且監督機關ノ設置ニ依リ独逸

六百万弗ヲ平等ニ割当テ右七国中央銀行又ハ銀行団ハ株式一億弗ノ総額応募ヲ保証ス。重役ハ右七国ヨリ各二名(中央銀行総裁又ハ其ノ指名スル同国人)及他ノ本件株券所有国国人中ヨリ前記重役ノ選任スヘキモノ(九名ヲ超ユルヲ得ス)ヲ以テ之ニ充ツ。(仏、独ハ更ニ各一名ヲ増加セシムルヲ得)尚株式ノ移動如何ニ拘ハラス投票權ハ当初ノ割当国中央銀行之ヲ行使スルモノトス。

四、支払計画

(一)支払期間

第一期 三十六年七月間(新案ヲ本年九月一日ヨリ実施シ千九百六十六年三月三十一日ヲ以テ終ル)

賠償及戦債支払ニ充當

第二期 二十二年間(千九百八十八年三月三十一日ヲ

以テ終ル)

戦債支払残額ニ充當

(二)支払年度

本年八月三十一日迄「ドーズ」案ヲ継続シ九月一日ヨリ新案ヲ実施セムトスルモノナル処独逸国会計年度ト

合致セシムル為初年度ハ千九百三十年三月三十一日ニ終ラシメ爾後支払年度ハ毎年四月一日ニ初マリ翌年三月三十一日ニ終ル。

(三) 支払金額

第一期 平均年金十九億八千八百八十万麻克(其ノ内戦債以外ノ賠償額平均年金七億四千二百八十万麻克)ノ他「ドーズ」外債支払所要額

第二期 戦債支払残額及混合裁判所決定対米支払額

(四) 支払方法

年金中六億六千万麻ノ定額ヲ以テ無条件送金ノ部分ト定メ、残余ニ付テハ支払猶予ヲ認メ得ルモノトシ且最初十年間ハ毎年一定額ヲ限り実物引渡ニ依ル支払ヲ認ム。

(五) 以上年金ノ現在価格ハ(五分半ノ率ヲ以テ換算ス)

対外戦争債務ニ相当スル分二百三十四億六千九百万麻其以外ノ賠償ニ相当スル分百二十三億四千五百万麻

(六) 年金ノ諸国分配左ノ如シ

(イ) 第一期間各国取得平均年金額(単位百万麻)

仏 国

一、〇四六・五

英 国	四〇九・〇
伊 国	二二三・七
白 国	一一五・五
ルーマニア	二〇・一
セルビア	八四・〇
ギリシア	七・〇
ポルトガル	一三・二
日 本	一三・二
ポーランド	〇・五
米 国	六六・一
合 計	一、九八八・八
五、帝国ノ毎年實際受領額ハ左ノ通りニシテ三十七年ヲ以テ打切ル	
第一年乃至第四年	一三・二
第五年乃至第八年	一一・九
第九年及第十年	一一・四
第十一年及第十二年	一一・九
第十三年乃至第二十一年	一三・二
第二十二年乃至第三十七年	一五・二

(付 記 三)

昭和四年六月七日

対独賠償専門委員会

委 員	森 賢 吾
同	青 木 隆
副委員	園 田 三 朗
同	松 井 和 宗

内閣総理大臣兼外務大臣 男爵 田中義一閣下

復 命 書

本委員等我政府並連合国賠償委員会ノ命ヲ承ケ対独賠償専門委員会ニ列ス本委員会ハ百四日ニ亘リ日夜精査立案交々努メ其結果六月七日ヲ以テ委員会ヨリ我政府ニ報告セリ本員等ハ我政府ニ於テ此報告ヲ採納セラレンコトヲ切望スルノ外敢テ他意アル者ニ非ス
然レトモ本委員会ノ報告ハ七ヶ国諸員ノ総意ヲ収結シ共通ノ見地ニ立脚シテ本流ノ帰趣ヲ示スモノニシテ敢テ泉源ノ所在支流ノ方向ニ遡ルモノニ非ス綱維ヲ提与スルモ敢テ経

緯ノ依テ来ル所以ニ及ハサルハ固ヨリ其所ナリ
仍テ本員等ハ別ニ事体ヲ解剖シ脈絡ノ詳ニ入り又特ニ我國ノ地位ニ立脚シテ大局ヲ觀察シタル結果ヲ列叙シ副委員ノ連署ヲ以テ茲ニ復命シ聊カ本報告ノ闕略ヲ補修セントス
我政府ニ於テハ本報告ヲ経トシ本復命書ヲ伝トシ以テ裁断ノ資ニ供セラルルヲ得ハ本員等ノ幸ヒ之ニ過キス
第一、賠償問題ノ最終解決ハ欧州大戦争ノ総決算ナリ恒久平和ヲ確立スル所以ナリ大戦争ノ遺物タル本問題ヲ解決スルニ非レハ欧州經濟ノ復興期スヘカラス世界繁栄ノ回復望ムヘカラス実ニ此解決ヲ告ケサル間欧州債権国ノ財政不安定ヲ醸シタルハ勿論独逸ノ經濟界素乱其極度ニ達シ欧州全土ヲ挙ケテ混乱ノ渦中ニ投セントシ其禍根慮ル可カラサルモノアリシハ「ヴェルサイユ」条約實施以來五ヶ年ノ歴史ニ徴シテ明カナリ
「ドーズ」案實施セラルルヤ独乙ノ通貨始メテ安定シ其予算均衡ヲ得、債権国ノ財政茲ニ漸ク小康ヲ得タリ是レ實ニ欧州經濟復興ノ基礎ニ第一石ヲ置キタルモノニシテ其功績實ニ大ナリト云フヘシ
第二、然リト雖「ドーズ」計画ハ其報告ニ言明シタルカ如

ク敢テ賠償問題ノ最終解決ヲ期シタルモノニアラス一方ニ於テハ其年金額ハ独逸ノ永久ノ支払能力ヲ確定シタルモノト云フヘカサルノミナラス独逸ノ支払総額ニ至リテハ定ムル所ナシ他ノ一方ニ於テハ独逸ノ支払義務ハ単ニ其国内通貨ヲ以テ支払フノ義務ニ限局シ海外支払ノ義務ヲ負担セシメタルモノニアラス加之監督機關ヲ設置シテ漸ク其支払ヲ確保シタルモノナリ之ヲ要スルニ独逸ノ此債務ハ猶所謂政治的ニシテ独逸ヲシテ其支払ニ全責任ヲ負ハシメタルモノニアラサルナリ蓋シ是レ當時危殆ニ瀕シタル事態ヲ救ハンカ為ニセル「ドーズ」計画トシテ事情止ムコトヲ得サリナリ

故ニ賠償問題ノ最終解決ニ達セントセハ「ドーズ」案實施五ヶ年間に経驗ニ徴シ一方ニ於テハ独逸ノ支払能力ヲ審査シテ年金額及支払年数ヲ確定シ以テ独逸ノ賠償義務ノ総体ヲ限定スルノ必要アルハ勿論他ノ一方ニ於テハ「ドーズ」計画ノ設置シタル監督機關ヲ一掃シ純然タル普通債務ニ變形シ以テ独逸ニ全責任ヲ負担セシムルノ必要アリ是レ所謂賠償問題ノ商業化ナリ

第三、独逸ノ義務総体ヲ定ムルニ当リ考慮スヘキ

然レ共債権国間ノ分配率ハ既ニ政府間ニ協定ノ存スルアリ嚴格ナル意味ニ於テ本委員会ノ権限内ナリヤ否ヤ疑問ニ属スルヲ以テ本委員会トシテハ久シク討議ノ問題トナラス唯単ニ独逸ノ支払能力ノ一階梯トシテ此問題ヲ非公式ニ協議シタルニ過キス而モ此協議ハ本委員会中最モ難関ヲ構成スルニ至レリ

分配率ニ関スル我政府ノ態度ハ既ニ夙ニ声明セラレタルモノアリ本員等ハ終始此声明ノ趣旨ヲ体シテ行動シタルハ勿論ナリ然レ共英國ヲ除キ其他諸国ハ賠償総額ノ減額ニ伴ヒ本委員会ニ依ル最終解決ノ一部トシテ新タナル分配率ヲ建議スルコトヲ必要トシ殊ニ伊白両国ノ如キハ死活ノ問題トナシ新分配率ヲ以テ新年金ヲ受諾スル条件ト為スニ至レリ茲ニ於テ本委員会ハ協調一致ノ目的ヲ完成センカ為ニ已ムコトヲ得ス此行程ヲ認容シ本員等ハ一方ニ於テハ固ヨリ我國既得ノ權利ヲ尊重セシムルノ手段ヲ取ルト同時ニ他ノ一方ニ於テハ此認容ハ會議ノ一致成功ヲ条件トスルコトヲ常ニ留保シタルモノナリ

其二ハ純然タル經濟問題ニシテ而モ本委員会目的ノ核心トス若シ夫レ債権国ノ所要ヲ集計シ直ニ之ヲ独逸ニ要求

其一ハ債権国所要ノ限度
其二ハ独逸ノ支払能力
其三ハ独逸ノ国外決済能力
其四ハ独逸ノ負担総額、年金及年数
其五ハ支払方法

ナリ

其一ハ債権諸国各々条約上ノ權利ニ基キ自カラ定ムヘキ所ニシテ敢テ専門委員会ノ関知スル所ニ非サルカ如シ然レ共独逸ノ支払能力ニシテ諸国ノ要求ヲ負担スルニ足ラサレハ諸国ノ条約上ノ權利ノ實質ハ自カラ独逸負担力ノ範圍ニ減縮セサルヲ得ス而シテ若シ債権国中其特殊ノ地位ニ基キ自カラ其權利ノ一部ヲ拋棄スル者アラハ独逸支払能力ノ範圍内ニ於テ其剩余ハ之ヲ他ノ債権国ニ配分シ得ヘシ現ニ英國ハ所謂「バルフォア・ノート」ノ結果トシテ自カラ賠償債権ノ要求範圍ニ制限ヲ加ヘタルアリ之ニ反シテ伊太利ハ其特殊ノ事情ヲ訴ヘ其既得權ニ超越シタル賠償ヲ要求セントスルニアリ茲ニ於テカ独逸ノ支払能力ヲ確定スル背後ニ於テ債権国間分配ノ問題伏在セ

リ

スルニ止マルモノトセハコレカ為ニハ賠償委員会ナルモノアリ其背後ニ連合政府アリ何ヲ苦シンテカ七ヶ国ノ財界大家ヲ煩ハスノ要アラシヤ専門委員会ノ専心努力スヘキ所ハ独逸ノ經濟力ヲ査^(6A)シ現在並ニ将来ニ亘リ独逸ノ直ニ負担シ得ヘキ能力ノ限度ヲ確定スルニ在リ若シ又債権国側ニ於テ単ニ論理上ノ計數ニ一致シ之ヲ強要シテ独逸委員ヲシテ受諾セシメ得タリトスルモ是レ單ニ紙製ノ空券ニ止マリ現実収メ得ヘキ結果ヲ齎スモノニアラス之ニ反シ諸員皆經濟ノ見地ニ立脚シテ独逸ノ実力ヲ闡明シ独逸委員ノ直ニ受諾シ得ヘキ計數ニ到達セハ此協調シタル債権ハ以テ独逸国民ノ誠意ヲ支配スルニ足ル可ク其支払ハ始メテ確實性ヲ帶フルニ至ルヘシ蓋シ誠意ハ債務履行ノ泉源ニシテ本委員会ノ使命ハ独逸国民ヲシテ此誠意ヲ懷抱セントスルニ足ルヘキ數字ヲ発見スルニ在リ其三ハ独逸支払能力ノ半面ニ属ス賠償債務ハ其性質上所謂海外支払債務ナリ然ルニ「ドーズ」計画ノ下ニ於テハ独逸政府ハ租税其他ノ麻收入ヲ以テ国内ニ於テ支払ヲナセハ足レリトナス然レトモ茲ニ最終解決ヲナサントスルニ当リテハ賠償金ハ全部独逸ノ責任ヲ以テ国境ヲ越ヘ送

金セシムルノ前提タラシムヘシ

而シテ麻收入ノ調達力ト国外送金ノ能力ハ自カラ別個ノ考慮ヲ要ス此問題ハ国内ノ租税負担力ト異リ敢テ事実計數ヲ以テ正確ナル予算ニ到達シ得ヘキ性質ノモノニ非ラス然レトモ一方ニ於テハ絶対ニ送金可能ノ限界線ヲ定メ得ヘク他ノ一方ニ於テハ不可能ノ限界線ヲ区画スルコトヲ得ヘク此兩界ノ間ニ於テ達観ヲ以テ安全ナル範圍ヲ定ムルヲ以テ足レリトナス而シテ斯ノ如クシテ定メタル安全界ハ独逸ノ将来ノ經濟力發展ニ伴ヒ将来益々其幅員ヲ拡張スルコト疑ナシ

然リ而シテ独逸ノ負担トシテ定メントスル年金ノ全部ヲ挙ケテ之ヲ其送金安全界ノ内ナリト断スルヲ得ハ幸ヒ之ニ過キス然レ共安全ト巨額ハ相伴ハス故ニ年金ノ幅員ヲ減スル能ハサレハ其一部ノ安全界タルヲ以テ満足スルノ外ナキナリ

然レ共此部分ハ債權國ニ取り頗ル貴重ナル財源ヲ為ス何トナレハ此部分ハ単ニ独逸ニ対シテノミナラス世界ノ一般ノ財界ニ対シ所謂無条件送金義務ト確定シ此金額ヲ基礎トシテ独逸國ヲシテ世界ノ市場ニ公債ヲ發行セシメ債權

セサル部分ハ三十七ヶ年ニ完済セシメ戰爭債務ニ相当スル部分ハ其後更ニ二十二年間延長スルノ折衷案ヲ生シタル所以ナリ是亦賠償債權中戰爭債務ニ相当スル部分ト其他ノ債權トノ間ニ処理ヲ異ニシタル所以ノ一ナリ

其五ハ独逸ノ支払ヲ容易ナラシメンカ為メニスル方法組織ノ考案ナリ蓋シ年金ハ「ドーズ」年金ト異ナリ全部独逸ニ於テ海外支払ノ全責任ヲ負担スルモノナリ斯ノ如キ義務ヲ負担セシムルニ当リテハ其支払ヲ円滑ナラシムヘキ組織ノ工夫ヲ要ス又万一ノ場合ニ臨ミ独逸ノ依テ以テ攀援スヘキ救命帶ノ用意ヲ備ヘサル可カラス茲ニ於テカ年金ヲ区分シ一部ハ無条件国外送金ノ絶対義務アルモノトシ其他ハ所謂条件付トシ送金困難ナル場合送金猶予ノ特典ヲ与フルノ制ヲ取り又此特典ヲ行ヒタル場合ニ備フル為予メ諮問機關ヲ設置シテ其善後策ヲ講セシメムトス更ニ又新計画実施ノ十年ヲ限り無条件部分ノ一部ハ実物弁済ヲ以テ之ニ充当スルコトヲ得セシムルノ組織ヲ考案シタリ

然リ而シテ独逸年金ノ總体ニ対シ其送金ヲ容易ナラシメ以テ債權國ノ実収ヲ確保センカ為メニハ又別ニ考案ヲ立

國ハ年金受領ノ權利ヲ海外市場ニ売り以テ一時ニ其元本ヲ収ムルノ便アリコレ所謂賠償年金ノ商業化ナリ其商業化スルヲ得ルハ其年金ニ優良性ヲ授ケタル所以ナリ

其四ハ以上三個ノ考慮ヲ計數ノ上ニ表示セントスルモノナリ賠償總額年金及年數ノ三者ハ相關連シテ離ルヘカラス其三者ノ内何レカ決定セハ他ノ二者ハ單ニ算數ノ技術ニ過キサルカ如シ然レ共現實一國ノ支払能力ヲ論スルニ當リテハ先ツ毎年負担シ得ヘキ額即チ年金ヲ目標トスルノ外ナシ若シ夫レ總額ニ対スル支払能力ノ如キハ架空ノ論ニ過キス故ニ先ツ独逸ノ受諾シ得ヘキ年金ヲ定メ次ニ其負担年數ヲ定ムレハ可ナリ此兩者ヲ基礎トシテ算出シタルモノ是即チ独逸負担ノ總額現在額ニ相当ス

而シテ其年數ハ債權國ノ所要ノ大小ニヨリ長短ノ論ヲ異ニス債權國ハ六十年以下ニ短縮スルヲ好マス蓋シ債權國中英米ニ対スル戰爭債務ヲ負担スルモノハ其期間ニ亘リ独逸ノ負担ヲ繼續セシメンコトヲ希望スルハ自然ナリ之ニ反シ独逸ハ一時代ニ限局センコトヲ主張シ敢テ戰爭ノ遺物ヲ子々孫々ニ負担セシムルコトヲ欲セス此異ナレ爾兩見地ヲ調和セシメンカ為賠償要求中其戰爭債務ニ相当

テタリ新銀行ノ創設即チ是レナリ

第四、「國際決済銀行」ノ創立ハ七ヶ國諸員ノ期セスシテ一致シタル希望ナリ

既ニ一方ニ於テ国外送金猶予ノ制及其諮問機關ノ設置ハ以テ独逸ノ地位ヲ緩和センカ為ニスルモノニシテ其立案ヲ英國委員 Sir Josiah Stamp ノ主宰スル分科會ニ依頼セリ之ト同時ニ他ノ一方ニ於テ賠償年金ノ証券化問題ハ以テ仏國ノ切望ヲ決定セシメンカ為ニスルモノニシテ其立案ハ特ニ委員長ノ指名シタル非公式ノ相談會ニ依頼シタリ此相談會ハ Lord Revelstoke ノ主宰タル所ニシテ同卿不^(b)ノ薨去ニヨリ委員會ノ失ヘル所重大ナリシト雖相談會ノ成果ハ故人ノ遺業トシテ永遠ニ記憶セラルヘシ相談會ニ於テ賠償年金ノ証券化ヲ立案スルニ當リ此所作ニ必要ナル信託機關ノ設置ヲ工夫シ加之更ニ此機關ニ一切ノ賠償事務ヲ担当セシメ一方ニ於テハ世界ノ投資市場ト独逸帝國トノ間ニ於テ他ノ一方ニ於テハ独逸政府ト債權國トノ間ニ於テ受授ノ關係ヲ円滑ニスルノ任務ヲ授クヘシト為セリ即チ独逸賠償年金ヲ有価証券化スルト同時ニ賠償問題ノ全部ヲ挙ケテ商業化セントスルモノナリ換

言スレハ賠償問題ヲ政治界ヨリ脱籍セシメ普通経済ノ領域ニ移植シスノ如クシテ一方ニ於テハ賠償義務ノ円満ナル履行ヲ確保シ他ノ一方ニ於テハ賠償委員会其他一切ノ監督機関タル戦争ノ遺物ヲ一掃シ以テ恒久ノ平和ヲ確立セントスルノ理想ニ出テタリト云フ可シ

此信託機関ニハ更ニ一步ヲ進メテ世界諸国ノ中央銀行間ニ於ケル連絡協力ノ用ヲ為サシメ又世界貿易ノ発達ヲ助長スルノ使命ヲ付帶セシムルヲ得可シト信セリ

実物弁済ノ分科会ハ從來ノ手続ヲ簡約ニスルト同時ニ諸国需給ノ円滑ヲ期センカ為一種ノ疎通機関ヲ考案セリ
両分科会及相議會ノ立案茲ニ至ルヤ

委員長ハ両分科会ノ立案セル両機関ヲ挙ケテ相談会ノ立案セル組織中ニ編入シ茲ニ國際決済銀行創立案トシテ本委員会ニ提出セリ故ニ新銀行創立案ハ委員會事業中最モ完全ナル協調賛同ヲ得タル部門ニシテ其創立ハ世界ノ經濟界ニ一大新面ヲ開拓スルモノナリ本銀行ノ機能ハ概博ニシテ其将来ノ發展ハ世界的ナリ然レトモ業務ノ主体ハ賠償ノ円満ナル履行ニ在リ殊ニ又其諮問機関ハ全然賠償ノ事務ニ限局セラルルモノナリ我國ハ賠償ニ利害關係ヲ

然ルニモ拘ハラス相談会カ我國ノ現状ヲ默過シタル所以ハ茲ニ故更ニ言及ヲ避ケントス之ト同時ニ我政府及国民ニ於テ最痛切ニ自覺ヲ要スヘキモノアルヲ知ルヘシ

第五、本委員会ハ所謂専門委員會ニシテ純然タル經濟財政ノ見地ニ立チ其所属政府ノ訓令ニ何等拘束セラルコトナク獨立ノ地位ニ於テ諸員協同ノ力ヲ以テ賠償問題ノ最終解決案ニ到達センコトヲ目的トスルモノナリ
本委員会ハ此趣旨ヲ服膺シテ其態度トナスヘキコトヲ声明セリ然レトモ国ノ事情ニヨリ各員ノ地位必スシモ同シ

カラス殊ニ又諸国政府ノ到底受諾シ得ヘカラサル解決案ハ之ヲ建議スルモ実行ノ価ナシ故ニ會議ノ重要ナル数多ノ点ニ於テ諸員間ニ政治上ノ考慮ヲ加フルノ傾向ヲ見タルハ事態ノ免レサル所ナリ

独逸ノ負担総額ヲ議スルヤ債權國ト債務國トノ間ニ於テ其見地ヲ異ニシ仏、伊、白ハ高キニ止ツテ下ルコト遲シ独逸ハ低キニ止マツテ登ルコト速ナラス此中間ニ於テ純然タル經濟上ノ見地ニ立チ公平ナル態度ヲ維持シ得ルモノハ日英米ノ三国ナリ殊ニ米國ハ其国力ヲ背景トシ委員長タル地位ニ於テ常ニ協調指導者トナリ日英亦常ニ之ニ

有スルコト尠ク又米國ノ如ク國際的投資市場ヲ有セサルニモ拘ハラス銀行ニハ本委員會ニ列席セル他ノ諸國ト平等ノ地位ニ於テ加入シ又諮問機関ニ於テモ平等ノ地位ニ於テ参加スルヲ得タリ

蓋シ相談会ニ於テ銀行加入國ノ資格並ニ加入ノ割合ヲ議スルヤ仏國ハ左ノ要素ヲ決定ノ基礎トシタル諸國分配案ヲ提出セリ

一、賠償ニ利害關係ノ大小

二、投資市場ノ大小

三、經濟力ノ大小

四、通貨ノ安定ヲ加入ノ条件トス

仏國案ハ論理的ニハ完璧ナリ然レトモ実行ノ問題トシテハ諸員間ニ異論ナキ能ハス殊ニ日本ノ加入分ヲ僅少ニ定メアルコト議論ノ焦点トナルノ奇觀ヲ呈シ結局苟モ相談會ニ列席セル七國ニ限りテハ一切平等主義ヲ採用スルニ至レリ然レトモ右要素中ノ第四即通貨ノ安定ヲ以テ加入ノ条件トナスノ一事ニ至リテハ^{マズ}議ノ一致シタル所ナリ故ニ若シ此主義ヲ嚴正ニ貫徹スルニ於テハ我國現状ニ照シ我國ハ此國際的機関ヨリ排斥セラレタルモノナルヘシ

協力セリ

然而米國ハ其委員長タル地位ニ鑑ミ自カラ発動スルコト却テ不便ナル場合モ尠カラス英國ハ四大債權國ノ中位ニ在リテ他ノ三國トノ協調上是亦自カラ進ム能ハサル場合モアリ斯ノ如キ場合ニ在リテハ日本ニ発動ヲ依頼シ會議ノ進行ヲ助ケセシメタルコト尠カラス

独逸ハ本委員會中孤立ノ債務國タル地位ニ照ラシ深ク米國側ニ倚賴シタルハ勿論ナルモ同時ニ常ニ日本ノ援助ト信用ヲ得ルニ努メタリ

故ニ本員等ハ我國賠償關係ノ僅少ナルニ拘ハラス委員會ニ於ケル責任輕カラサルコトヲ體驗シ苟モ解決ノ途ニ於テハ全力ヲ尽シタリト信ス

年金ニ関スル英仏白伊四國結束ノ確定案提出セラレタル四月十三日ノ本會ニ於テ一方ニ於テ仏國ハ若シ独逸ニシテ聴カサレハ直ニ會議ヲ退クノ決心ヲ以テ臨ミ他ノ一方ニ於テ此事情ヲ知りタル独逸モ深キ覺悟ヲ以テ来タリ本委員會會議中ノ最モ緊張シタル會議トナリ独逸ノ即答ヲ拒絶スルヤ仏國ハ直ニ四國案ノ全部ヲ公表センコトヲ主張シ英國ト雖不得止之ニ同意シ独逸亦之ニ応シテ公表ヲ

辞セサルノ決意ヲ表明シ委員會ハ將ニ決裂セントシタルニ対シテハ日本委員ハ独力ノ主張ヲ以テ全員ニ反対シ遂ニ先ツ独逸ヲシテ其意ヲ翻ヘサシメ克ク全員ヲ同意セシメ危ク其決裂ヲ救ヒ委員長ハ勿論全会ノ感謝スル所トナレリ

其後委員長ハ新ナル計數ヲ策成シ独逸委員ヲ受諾セシムルヤ其提案ニ當リ率先シテ劈頭第一ニ之ニ賛意ヲ表シ得ルノ地位ニ在ルモノハ日本委員ノミナリシヲ以テ日本委員ハ此任ニ當リ英國之ヲ支持シ伊國之ニ追隨シ會議ハ茲ニ新局面ヲ拓クニ至レリ

然レトモ本員等ノ以上ノ態度ハ敢テ単ニ英米独ノ希望ニ迎合シタルモノニアラス仏白伊ニ於テモ単ニ或ル事情ニヨリ其自カラ表明シ能ハサル内心ノ希望アルヲ明カニ付度シタル結果ニシテ以テ全局ノ進行ニ貢獻セントシタルニ外ナラス故ニ此態度ハ是等諸國モ常ニ深ク之ヲ諒トシ又或ハ深ク之ヲ徳トシタルコトアリ

第六、四國案ノ年金ハ二十一億九千八百万麻ニシテ三十七ヶ年間トス之ニ白耳義ノ麻清算額二千五百万麻ヲ加フルトキハ毎年二十二億二千三百万麻トナリ其後ノ二十二年

ル最終解決ヲ告ケタルモノト信ス然レトモ仏ハ直ニ之ニ承諾スルヲ欲セス何トナレハ此ノ年金總額減少ノ結果トシテ若シ英仏ノ兩國ニ於テ一層減率ノ犠牲ヲ払フニ非サレハ伊白ノ要求ヲ満足セシムルヲ得ス又白ハ麻清算ヲ此年金外ニ置キタルコト最モ不滿ナリ伊ハ此年金總額ヲ以テ解決センコトヲ希望スト雖自國要求ノ満足ヲ英仏兩國ノ犠牲ニ取ラントス然リ而シテ英國ハ「バルフォア・ノート」ノ極度迄讓歩シタル以上最早ヤ犠牲ノ余地ナシトス依テ仏ハ本案ヲ拒絕シテ四國案ニ復歸スルカ若クハ此案ヲ受諾スルノ条件トシテ「スバー」協定ヲ維持スルカ二途ノ内何レカヲ選フノ外ナシト決心セリ斯ノ如ク分配問題ノ難關ニ衝突シテ委員長ノ新案ノ通過ヲ困難ナラシメタリ

加之独乙委員ノ受諾シタルハ數個ノ条件ノ下ニシタルモノニシテ此条件ノ主ナルモノハ支払猶子ノ特典、鐵道會社ノ獨立旧埃匈帝國ノ承繼國ニ対スル賠償委員會ノ債權ト最後二十二ヶ年間ニ於ケル年金トノ相殺ナリ是亦仏白ノ最モ受諾シ難キ所ナリ
茲ニ於テカ債權國側ハ委員長案ヲ基礎トシ現在「ドーズ」

間ハ債權國戰爭債務ノ負担額ノ殘額ヲ計上ス
独乙ノ提出シタル年金ハ十六億五千万麻ノ平均ニシテ三十七ヶ年トシ二十二ヶ年ニ於ケル戰爭債務ノ負担ヲ除外ス

兩者間其金額ニ於テ大差アルハ勿論四國案ニ於テハ無条件送金ノ部分ヲ平均七億五千三百七十万麻ト定メタルモ独乙案ノ年金ハ全部条件付ニ属ス故ニ債權ノ優良性ニ於テ非常ノ懸隔アリ

斯ノ如キ兩極端ノ兩案ハ其何レヲ以テ討論ノ基礎トスルモ相接近セシムルコト不可能ナルヲ以テ委員長ハ更ニ自カラ一案ヲ作成シテ非公式ニ独乙委員ト交渉ヲ重ネタリ委員長ノ新案ハ平均二十億五千万麻三十七年トシ（麻清算問題ハ本委員會ノ外ニ於テ別途独白ノ間ニ於テ而カモ同時ニ解決スルモノトシ）其後ノ二十二ヶ年間ニ於テ債權國ノ負担スル戰爭債務ノ殘額ヲ計上スルコト四國案ト同様ナリ此案ヲ以テ独乙ヲ受諾セシメ得タル委員長ノ功績偉大ナリ

本案ハ独乙ノ誠意ヲ支配スルニ至ルヘキ計數ニシテ債權國ニ於テ之ニ同意シタリシトセハ賠償問題ハ最モ円満ナ

案ノ年金ヲ本年末迄繼續シ之ニ依ツテ財源ヲ捻出シ以テ伊白ノ要求ヲ満足セシメンコトヲ計レリ

是レ独乙ノ受諾シタル負担ト異ナレルヲ以テ独乙委員ハ承諾セス又其条件ノ重要ナル部分ニ付キ債權國ノ容ルル所トナラス此間独乙委員 Vogler 辭職シ以テ委員長トDr. Schacht トノ間ノ協定ニ反対ノ意ヲ表明スルアリ独乙ノ委員ノ地位頗ル困難トナレリ五月ノ下旬委員會ハ茲ニ再ヒ危殆ニ瀕セリ

加之絶倫ノ忍耐力ト豊富ナル工夫力ヲ以テ會議ノ命脈ヲ繫ギ来レル委員長及米國委員モ茲ニ至リテハ術ノ施ス所ナシトシ最後ノ決心ヲ以テ直裁ニ委員會ノ処決ヲ求メントスルニ至リ英モ我ニ謀リ委員長ノ態度ニ協力スヘキヲ決心シタルコトアリ茲ニ於テカ仏國ノ態度稍々緩和シ遂ニ更ニ仏國副委員「ケネー」自免ノ考案ニヨリ「ドーズ」年金ヲ本年八月三十一日迄ノ繼續ニ止メ独乙ノ負担ヲ緩和シ委員長新案ノ年金ヲ適當ニ安排シテ一案ヲ作り非公式ニ將來ノ計數専門家トノ間ニ工夫ヲ凝ラシ茲ニ更ニ新提案ヲ生スルニ至レリ

此提案ハ新案ノ実施ヲ本年九月一日ヨリ開始シ独乙ノ會

計年度ニ符号セシムルカ為初年ハ七ヶ月（一九三〇年三月三十一日ニ終ル）トシ此初年度ニ於ケル債権国ノ戦争債務支払ハ「ドーズ」年金ノ最後ノ支払額ヲ以テ処弁シ得ルヲ以テ新計画ノ初年度ニ於テハ単ニ残余賠償額七億四千二百八十万麻支払ヲ以テ足ルモノトス其後三十六ヶ年金額ト合セテ通算シ委員長ノ提案ト其平均年金額ヲ同フスルモノナリ

第七、委員長ハ此最後ノ案ヲ以テ独逸委員ト交渉ヲ開始スルヤ茲ニ又一難関ヲ生シタリ

先是独逸軍ノ白耳義占領中ニ発行シタル麻紙幣清算ノ問題ハ「ヴェルサイユ」条約ノ賠償ニアラス随テ本委員会ノ権限内ト云フ可カラス然レトモ本委員会ヲ組織シタル「ゼネバ」ノ会議ニ於テ白国ハ既ニ本委員会ト同時ニ本問題ノ解決ヲ必要トスルコトヲ声明セリ故ニ白国委員ハ仏国委員ノ後援ヲ得テ委員長ニ懇請シ何等カノ方法ヲ以テ本問題ヲ委員会ニ連絡セシメンコトヲ図レリ蓋シ過去ノ経験ニ鑑ミ本問題ハ白国ノ独力ヲ以テシテハ解決ノ途ニ乏シキヲ以テナリ

委員長ハ権限論ト情実論トノ間ニ正シキ限界ヲ引クト同

信頼スルニ足ラスト主張シ本問題解決スル迄債権国委員ハ本報告ニ署名セサル旨ノ誓約ヲ債権国會議ニ要求セリ仏国ノヲ諾シ伊ハ進退ニ窮ス英日ハ事理ヲ尽シテ斯ノ如キ誓約ニ反対シ同時ニ本問題解決スル迄新案ヲ実行セサルノ規定ヲ以テ白耳義ノ地位ヲ保障スヘキコトヲ提案シ白国委員ノ反省ヲ求メ委員長モ此趣旨ヲ起案シ白国ノ満足ヲ求メタルニ白国委員ハ更ニ金額ノ保障ヲ付加センコトヲ要求スルニ至ルヤ委員長ハ嚴然之ヲ拒絶シ白耳義委員モ一夜ノ考慮ヲ乞ヒ翌六月四日ノ會議ニ於テ多少ノ修正ヲ以テ保障案ニ満足ヲ表セリ

茲ニ於テカ最後ノ難関タリシ麻清算問題モ解決シ又一方

独逸ノ要求シタル条件ニ関シテモ互譲協調成リタルヲ以テ仏国モ年金案全部ニ同意シ賠償問題最終決案漸ク全会一致完全ナル協調ニ達ス

第八、仍テ確定シタル新案ノ支払計画左ノ如シ

一、支払期間

第一期 三十六ヶ年七ヶ月
第二期 二十二ヶ年
右ハ新案ヲ一九二九年九月一日ヨリ実施スルモノトシ第

時ニ本委員会ノ潜勢力ヲ以テ独白両国間ノ交渉ヲ容易ナラシメンコトヲ努メ本問題ハ會議ノ外ニ於テ委員長幹旋ノ下ニ独白両委員間ノ交渉ニ委ネタルモ其経過円滑ナラス殊ニ独逸委員ハ本問題ト *Enpen Malmedy* ノ回復問題ヲ関連セシムルノ意ヲ表シタルヲ以テ白国委員「フランク」大ニ憤慨シ仏伊両委員ニ挙援シテ麻清算要求額ヲ四国案中ニ挿入セシムルニ至レリ

委員長ノ第二案独逸ノ承諾スル所トナルヤ白国ハ其要求額ノ追加ヲ独逸カ承認スルニアラサレハ報告ニ署名スル能ハスト主張シ茲ニ會議ノ破裂ヲ脅カシタリ

依テ委員長ハ極力百方独逸政府ヲ説得シ遂ニ独逸政府ヲ決心セシメ独逸委員ヲシテ独逸政府ノ態度ヲ声明セシメタリ即独逸政府ハ

(a) 新タナル基礎（領土問題ヲ起サストノ意）ニ於テ麻清算問題解決ノ交渉ヲ開クノ用意アルコト

(b) 此目的ノ為ニ特ニ新タニ交渉委員ヲ任命シタルコト

(c) 賠償新案実行前ニ必ス其交渉ヲ終了スルコト

然ルニ白国委員ハ之ニ満足セス本國政府ノ電報ニ照ラシ独逸外相ト白国公使トノ会見ヲ引用シ独逸委員ノ声明ハ

一期ハ一九六六年三月三十一日ヲ以テ終リ第二期ハ一九八八年三月三十一日ヲ以テ終ルモノトス

二、支払年度

初年ハ一九二九年九月一日ヨリ一九三〇年三月三十一日ニ至ルモノニシテ其後ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年ノ三月三十一日ニ終ル

三、支払金額左ノ通り

(i) 第一期ハ平均年金十九億八千八百八十万麻ノ三十七年間ノ価格ニ相当スルモノニ「ドーズ」外債元利支払二年ニ所要ノ額ヲ加算スルモノニシテ上記平均年金十九億八千八百八十万麻ノ価格ニ相当スル年金ハ連合國ノ戦争債務支払額以外ニ残余賠償額トシテ平均年金七億四千二百八十万麻ノ価格ニ相当スルモノヲ包含ス

依テ對外戦争債務ニ相当セサル賠償ハ（米國ヲ除キ）第一期中ニ支払ヲ完済ス

(ii) 第二期ハ連合國戦争債務支払額ノ残存二十二ヶ年分ヲ償フヘキ金額ニ混合裁判所決定対米債務ノ支払額ヲ加算ス

四、支払方法

年金中六億六千万麻ノ定額ヲ以テ無条件送金ノ部分ト定メ残額ニツキテハ送金若クハ支払ヲ猶予シ得ヘキ特典アリ且実物引渡ニ依ル支払ヲ認ム

五、以上年金ノ現在価格ハ(五分半ノ率ヲ以テ換算スレハ)

対外戦争債務ニ相当スル分 二百三十四億六千九百万麻
其以外ノ賠償ニ相当スル分 百二十三億四千五百万麻
六、年金ノ諸国分配左ノ如シ

(イ)第一期間各国取得平均年金額(単位百万麻)

仏 国	一、〇四六・五
英 国	四〇九・〇
伊 国	二二三・七
白 国	一一五・五
ルーマニア	二〇・一
セルビア	八四・〇
ギリシア	七・〇
ポルトガル	一三・二
日 本	一三・二

当リ猶ホ克ク大過ナクシテ其任務ヲ尽シ得タルハ一方ニ於テハ諸国同僚諸氏ノ好意ニヨレルハ勿論ナレトモ又安達大使其他関係在外公館員並財務官職員及本事務所木内書記長其他随員ノ協力与ツテ力アリシハ言フ俟タス
然而茲ニ特ニ我政府ニ申達シタキモノアリ即チ津嶋財務官ノ功績是レナリ同官ハ夙ニ本委員会ノ開始ニ先チ本員等ノ為メニ諸般ノ準備ヲ調熟シテ本員等ノタメニ進路ヲ拓キ委员会中ハ特ニ巴里ニ駐在セラレ外ハ本員等ノ採ルヘキ指針ニ付適切ノ助言ヲ与ヘラレ本員等ヲシテ進退機宜ヲ失ハシメス内ハ以テ事務ヲ総括シテ後顧ノ憂ナカラシメ内外共ニ遺漏ナキヲ得タルハ実ニ津嶋財務官ノ賜タルコト特ニ政府ニ於テ記憶セラレンコトヲ希望ス
又随員鈴木秀實ハ本委員会ノ為メニ既定ノ帰朝ヲ延期シテ本委员会ノ事務ニ一身ヲ捧ケ日夜精勵克己計数ノ精ヲ究メ文書ノ闡明ニ勤メ調査立案ノ功実ニ渺カラス

(付 記 四)

対独賠償専門委員会成立前後経過

昭和三年九月国際連盟総会出席ノ為「ジュネーヴ」ニ赴キ

ポーランド

〇・五

米 国

六六・一

合 計

一、九八八・八

(ロ)本邦毎年實際受領額ハ左ノ通りニシテ三十七年ヲ以テ打切ルコトナリ居レリ

第一年乃至第四年	一三・二
第五年乃至第八年	一一・九
第九年乃至第十年	一一・四
第十一年乃至第十二年	一一・九
第十三年乃至第二十年	一三・二
第二十年乃至第三十七年	一五・二

(右ノ内最初十年間ハ実物引渡ニヨル支払額ヲ包含スヘキモノニシテ其金額ハ各国同様毎年実分引渡ニヨル支払総額ニ対スル「スパー」率ニヨルモノナリ)

第九 本員等不敏ニシテ此重命ヲ拜シ固ヨリ智識経験ニ乏シク殊ニ専門委员会ノ性質上政府ノ訓令ヲ仰クヲ得ス全ク単ニ所信ニ基キテ行動スルノ外ナカリシナリ從テ其処置果シテ肯綮ニ当レリヤ否ヤ常ニ竊カニ憂慮スヘキ所ナリシ然ルニモ拘ハラス百余日ノ長キニ亘ツテ至難ノ業ニ

タル独逸宰相ハ旧連合側ニ依リ國ニ對シ萊因地方撤兵ノ件ニ関シ交渉ヲ開始シタル処独逸側要求ニ對シ旧連合側ハ賠償問題ト撤兵問題トハ互ニ緊密ナル関係ニアルヲ以テ賠償問題ノ未確定ノ部分ヲ一掃シ之ヲ終局ノ二解決スル必要アリト答ヘ独逸側ハ初メ難色アリシモ結局同九月十六日日、英、仏、伊、白及独六國決議ニ依リ政府ノ訓令ニ拘束セラレサル専門家ヲ以テ一ノ専門委员会ヲ組織シ先ツ賠償問題ノ完全且終局の解決案ヲ作成セシムルコトトシ撤兵問題ニ関シテハ仏独間ニ於テ交渉ヲ行ハシムルコトトナリタリ右委员会ハ前記六國委員ノ他米國委員ヲ加ヘ昭和四年二月十一日より同六月七日マテ米國委員「オーエン・ヤング」議長ノ下ニ巴里ニ於テ開催、前後數次決裂ニ瀕セシモ遂ニ報告書ヲ完成スルコトヲ得賠償委员会及寿府決定参加國ニ提出シタリ我方ヨリハ森賢吾及青木隆ノ二名本委员会ニ参加シタルモ右提案ハ専門家ノ報告ナルヲ以テ之ヲ國際約定トナスニハ關係國政府間ニ協定スルコトヲ要スル次第ニテ近ク其ノ為メニ國際會議ノ開催ヲ見ルベク右會議ニ於テハ賠償問題ノ外萊因撤兵問題等モ同時ニ議題タルヘシ